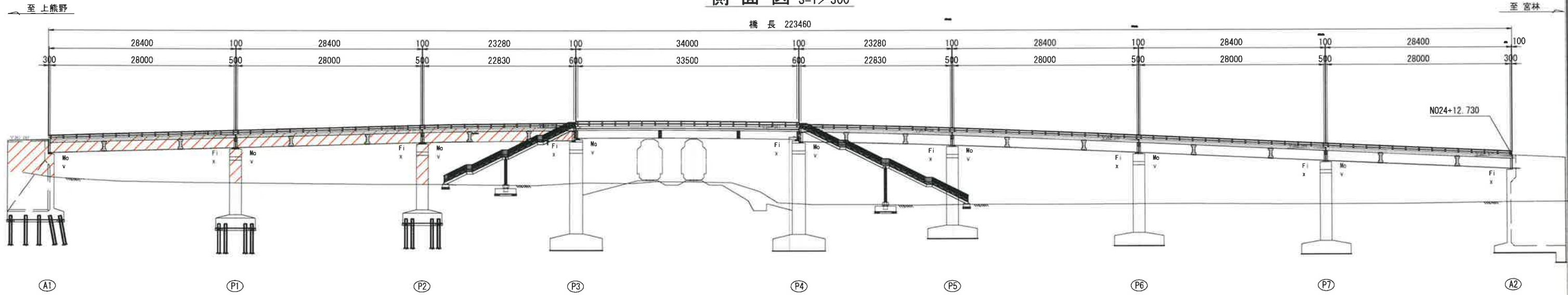


# 工事施工範囲

## 城平跨線橋 全体一般図(復元図その1)

側面図 S=1/300



平面図 S=1/300

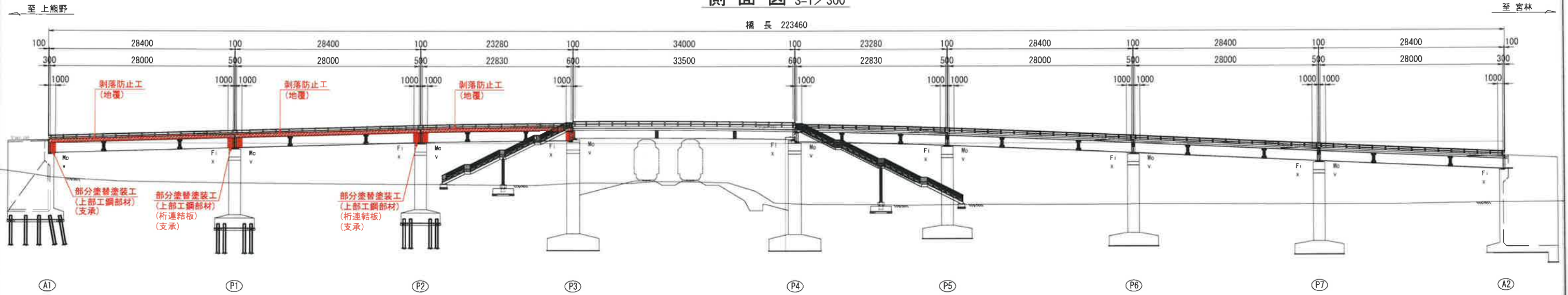


- 注記)
1. 本一般図は、既存資料を基に一部推定を加えて復元したものである。
  2. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  3. 施工に際しては、必ず現地に於て補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  4. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

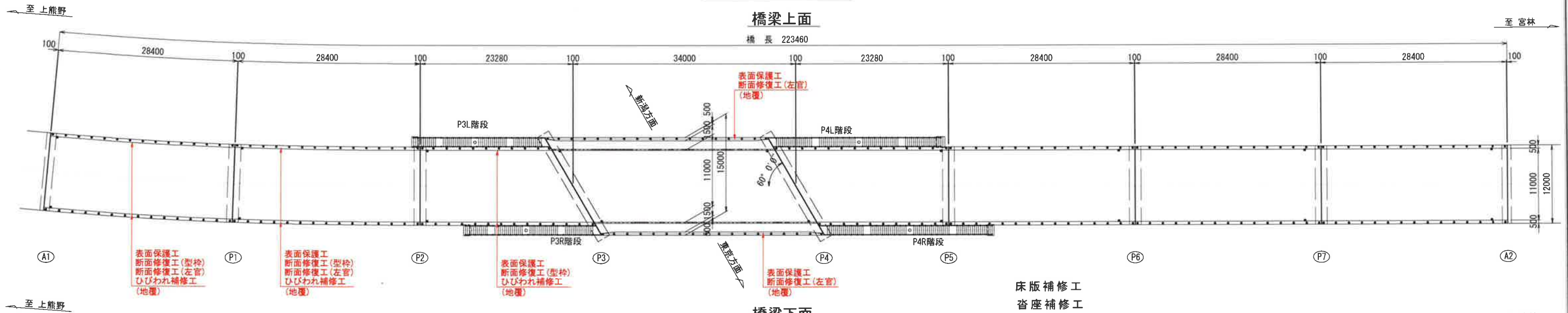
工事名	
図面名	城平跨線橋 全体一般図(復元図その1)
作成年月日	令和 2年 1月 日
縮尺	図示 図面番号 1 / 85
会社名	
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

## 城平跨線橋 補修一般図(その1)

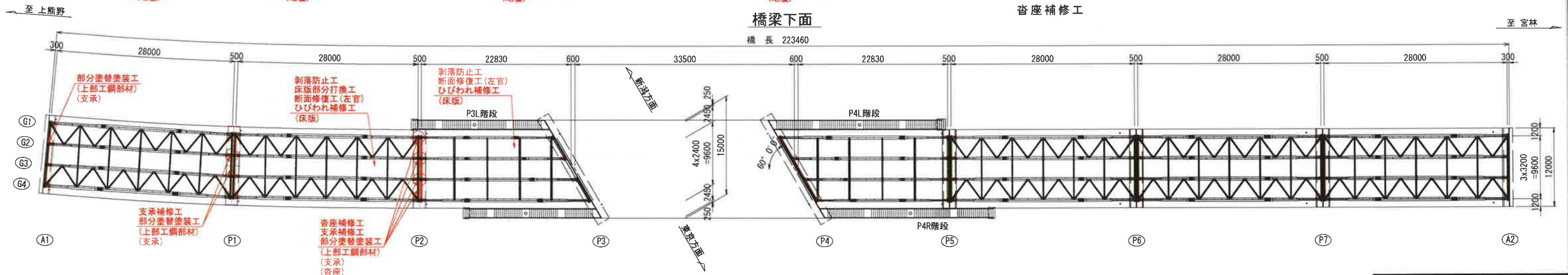
側面図 S=1/300



平面图 S=1/300



橋梁下面



注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

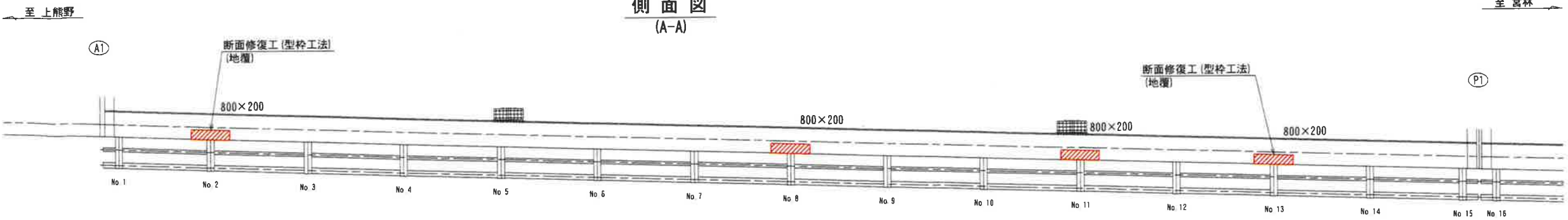
工 事 名			
図 面 名	城平跨線橋 補修一般図(その1)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	3 / 85
会 社 名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		



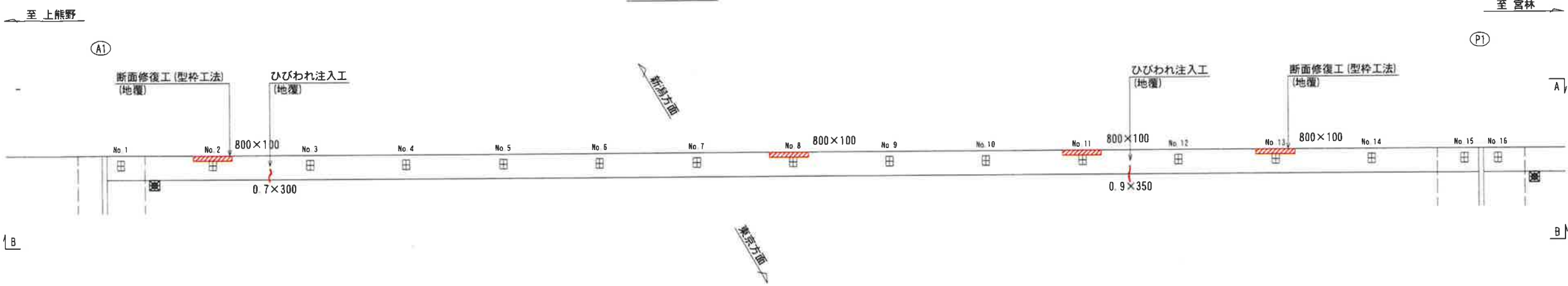
城平跨線橋 地覆補修工(その1) S=1/50

(地覆 新潟側A1-P1径間)

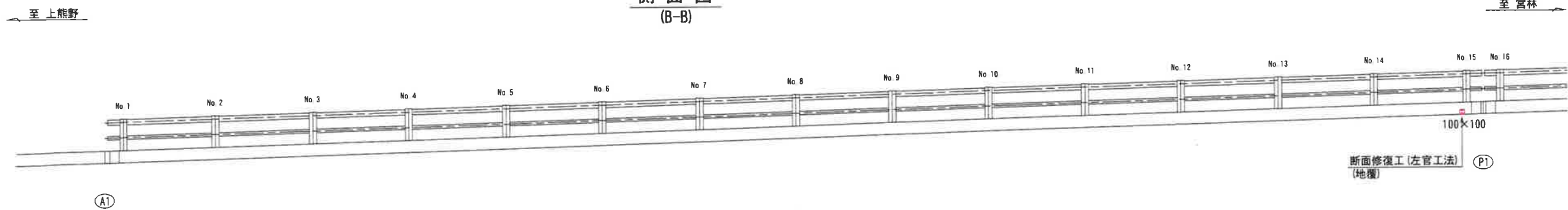
側面図  
(A-A)



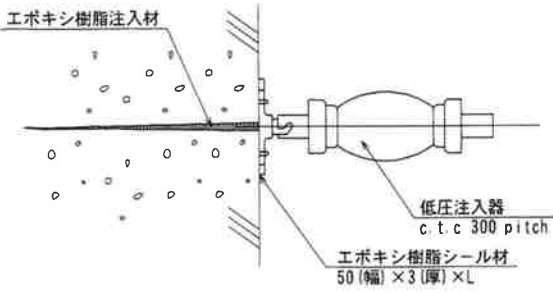
平面図



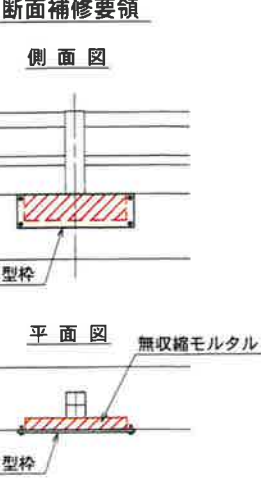
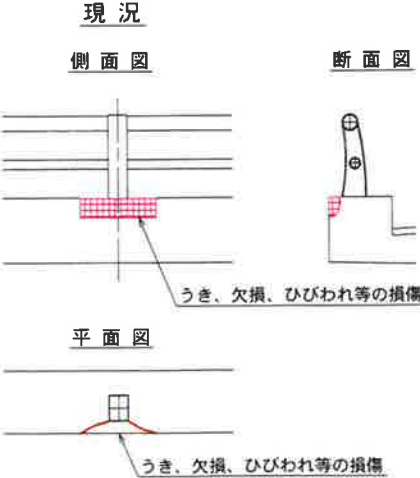
側面図  
(B-B)



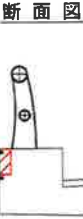
ひびわれ注入工



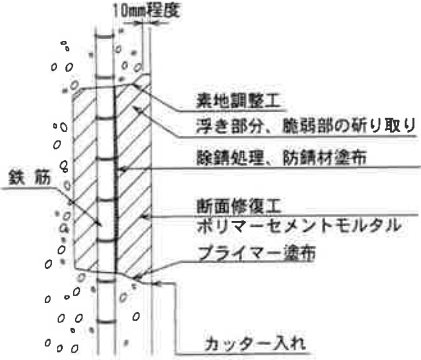
型枠工法



断面修復工



左官工法



注記)  
・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。  
・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。  
・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。  
・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。  
・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	剥離

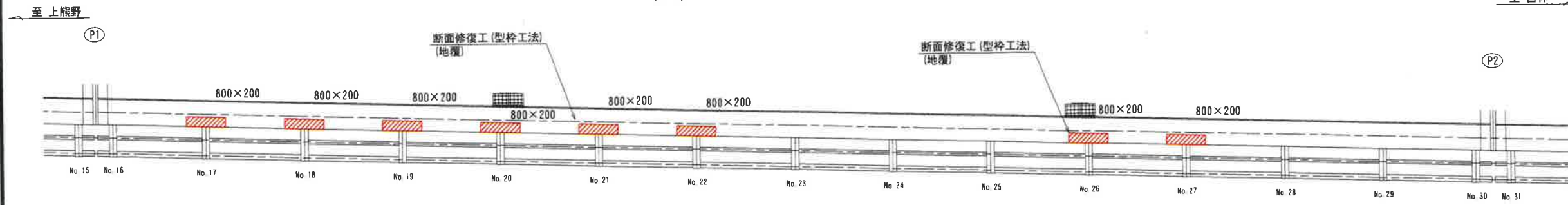
注記)  
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。  
2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。  
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工(その1)
図面名	平成30年12月 日
作成年月日	図示 図面番号 5 /
縮尺	株式会社 構造技研新潟
会社名	事業者名 湯沢町地域整備部建設課

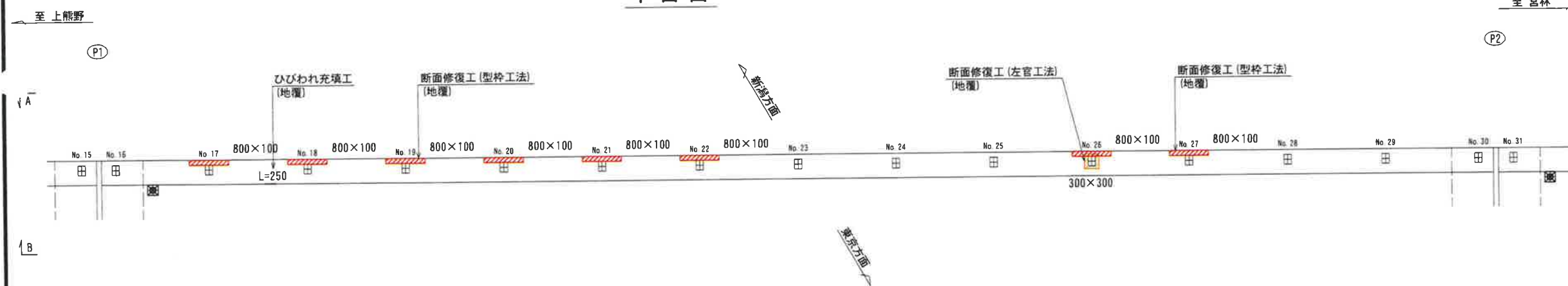
# 城平跨線橋 地覆補修工(その2) S=1/50

(地覆 新潟側P1-P2径間)

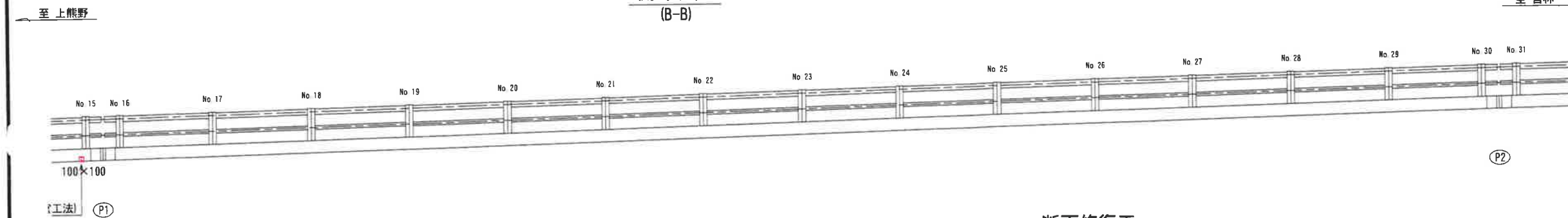
側面図  
(A-A)



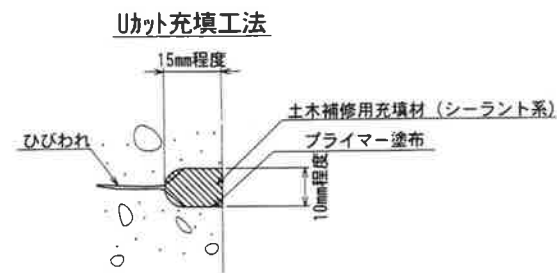
平面図



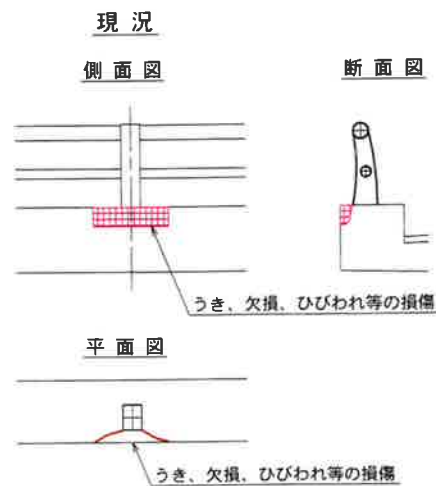
側面図  
(B-B)



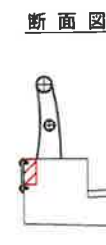
## ひびわれ充填工



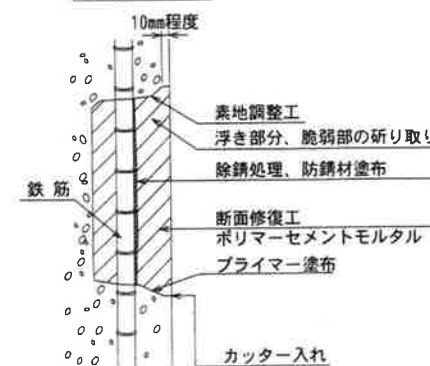
## 型枠工法



## 断面修復工



## 左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
  - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
  - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
  - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
  - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

凡例

	打継ぎ
	うき

注記)

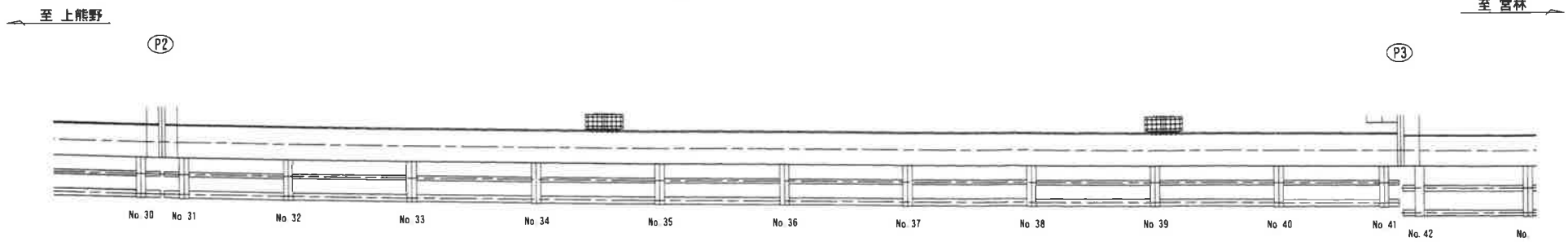
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工(その2)
図面名	城平跨線橋 地覆補修工(その2)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 6 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

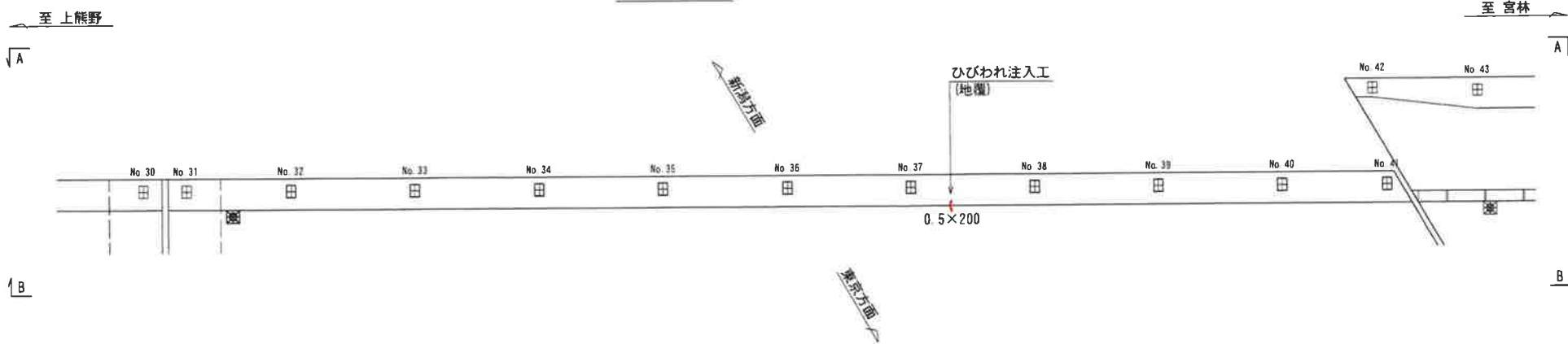
城平跨線橋 地覆補修工(その3) S=1/50

(地覆 新潟側P2-P3径間)

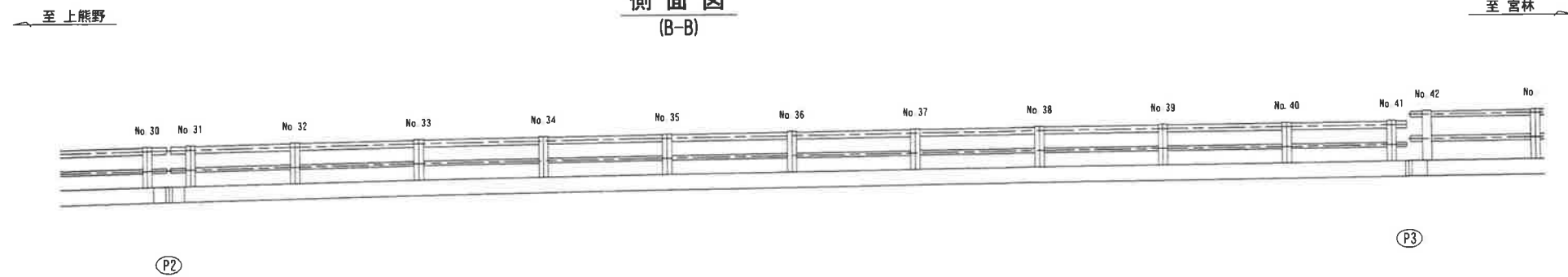
側面図  
(A-A)



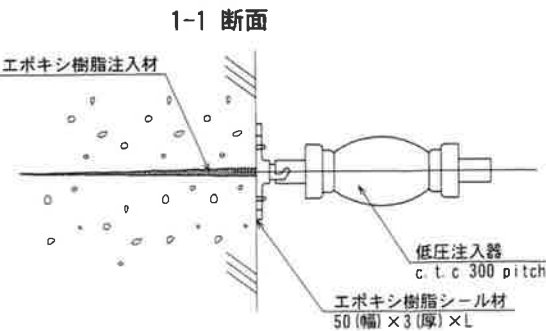
平面図



側面図  
(B-B)



ひびわれ注入工



凡例

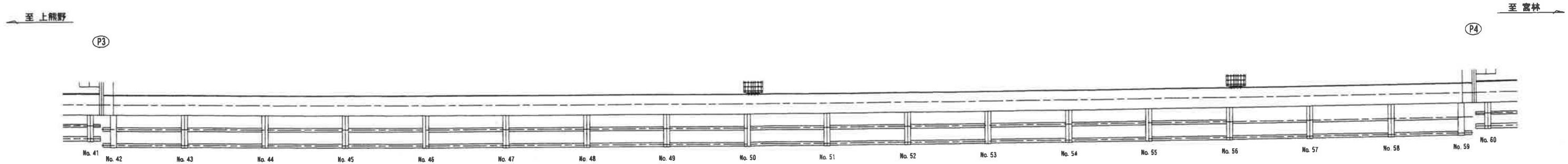
	0.2mm以上のひびわれ
--	--------------

- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

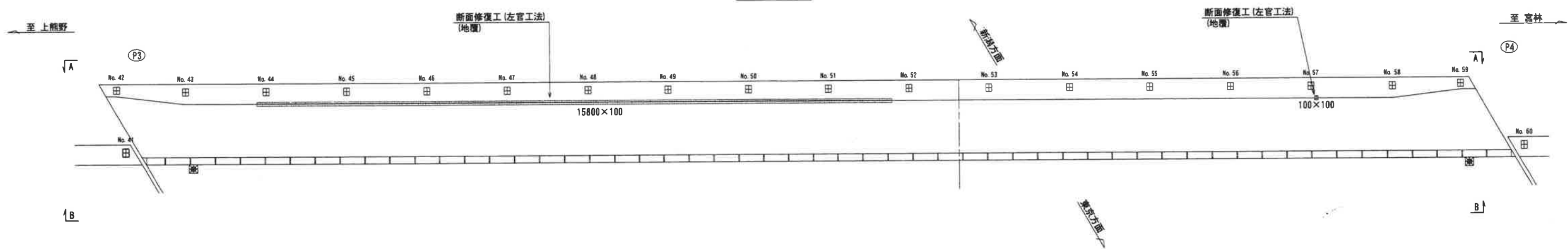
工 事 名	
図 面 名	城平跨線橋 地覆補修工(その3)
作成年月日	平成30年12月 日
縮 尺	図 示 図面番号 7 /
会 社 名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

(地覆 新潟側P3-P4径間)

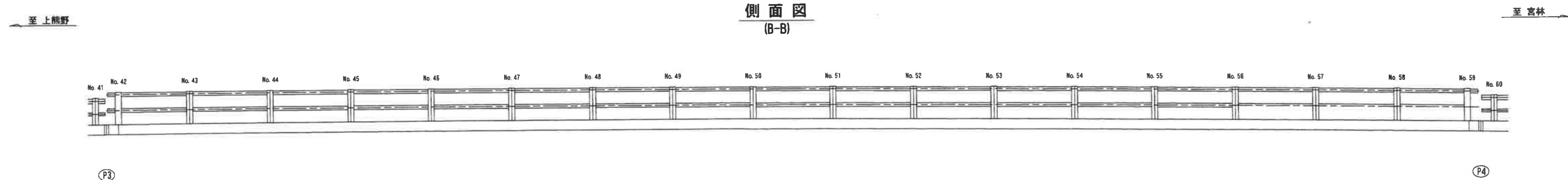
側面図  
(A-A)



平面図

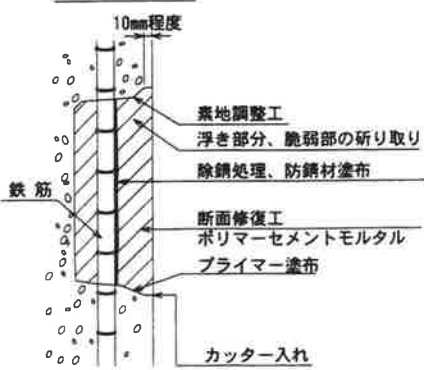


側面図  
(B-B)



断面修復工

左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
  - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
  - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
  - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
  - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

凡例

断面修復工 (左官工法) (地覆)	剥離
-------------------	----

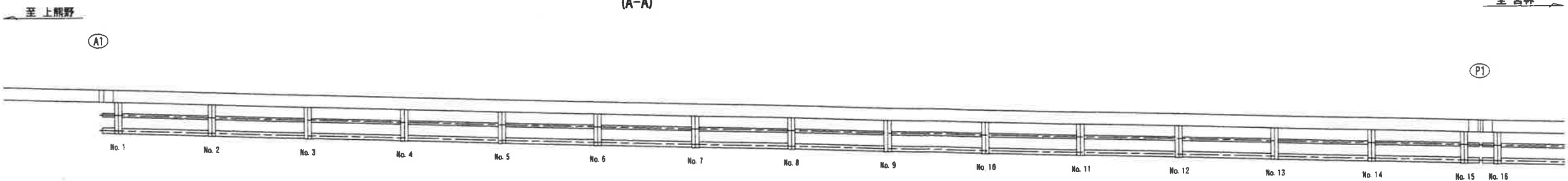
- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工 (その4)
図面名	城平跨線橋 地覆補修工 (その4)
作成年月日	平成30年12月 日
補尺	図示 図面番号 8 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

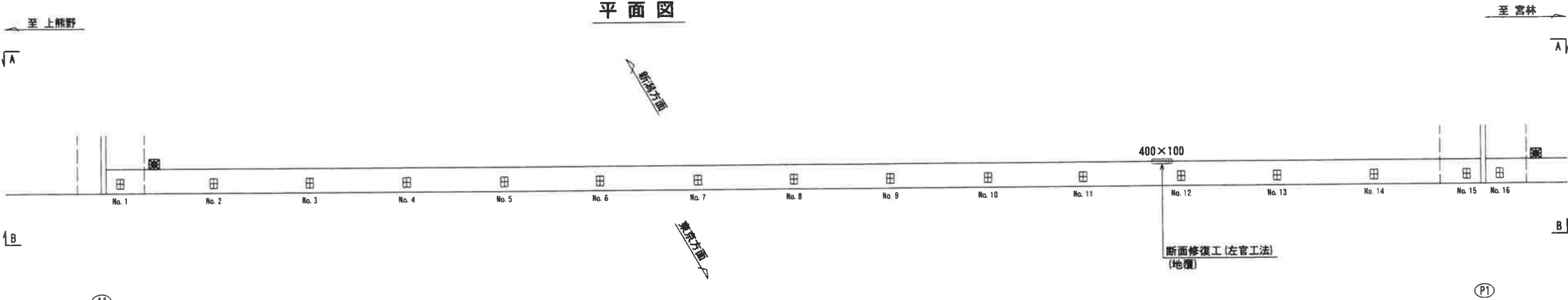


(地覆 東京側A1-P1径間)

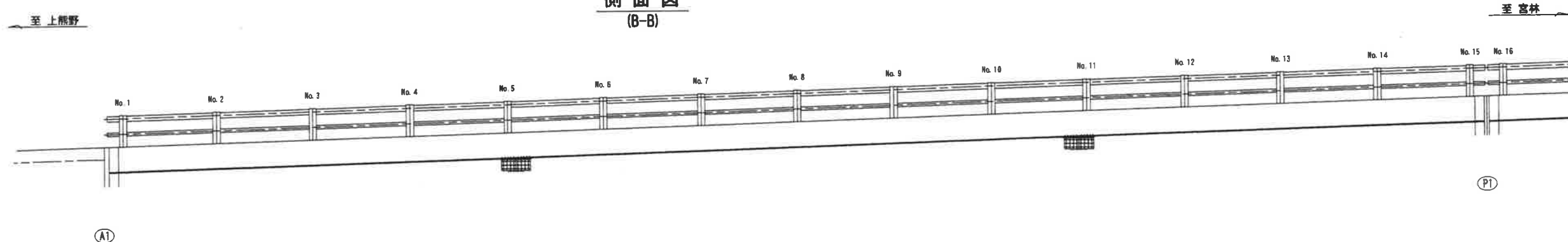
側面図  
(A-A)



平面図



側面図  
(B-B)

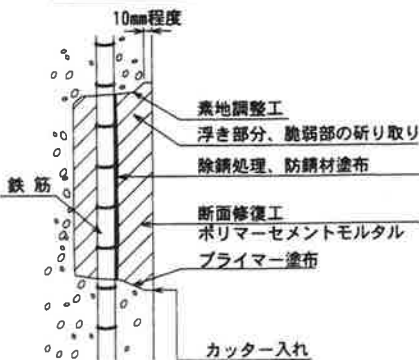


凡例

	剥離
--	----

断面修復工

左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
  - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
  - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
  - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
  - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

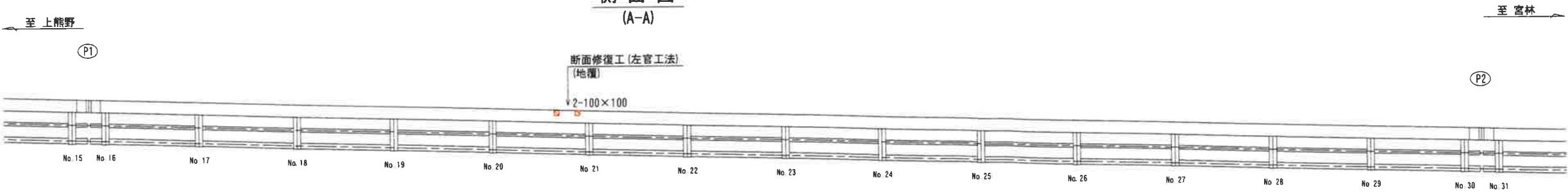
注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

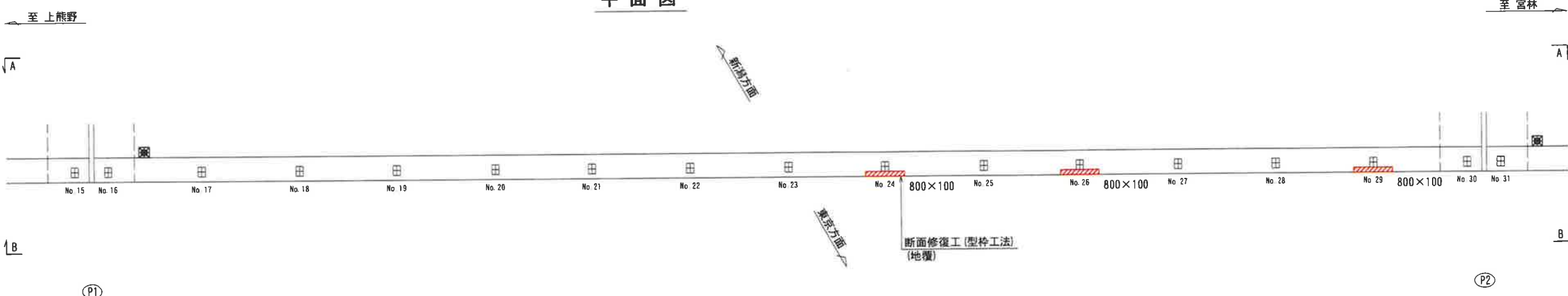
工事名	城平跨線橋 地覆補修工(その9)		
図面名	城平跨線橋 地覆補修工(その9)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	13 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

(地覆 東京側P1-P2径間)

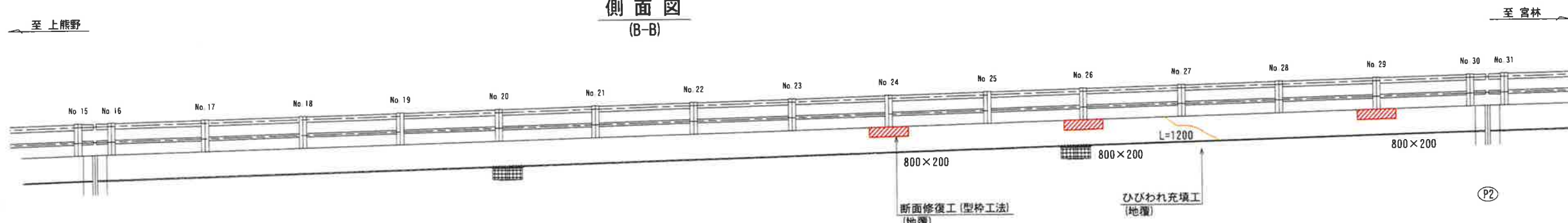
側面図  
(A-A)



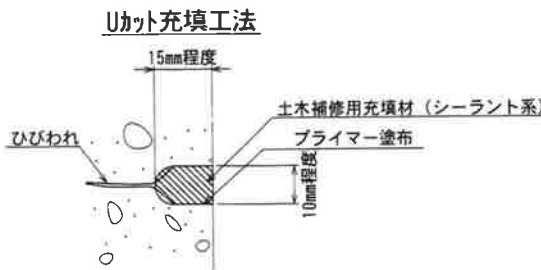
平面図



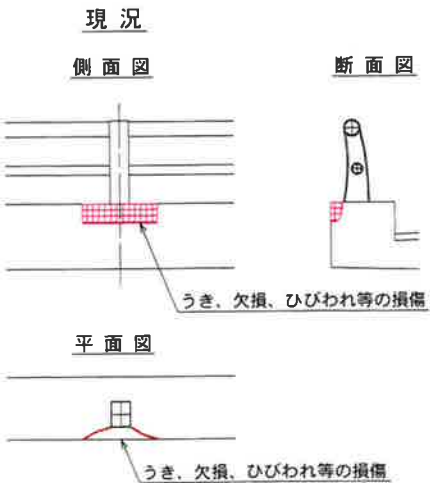
側面図  
(B-B)



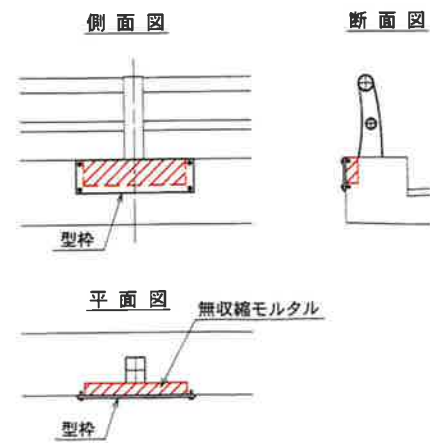
ひびわれ充填工



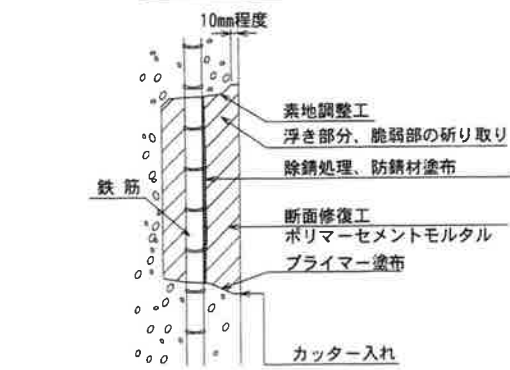
型枠工法



断面補修要領



断面修復工



注記)  
・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。  
・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。  
・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。  
・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。  
・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

凡例

打継ぎ
鉄筋露出

注記)

- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

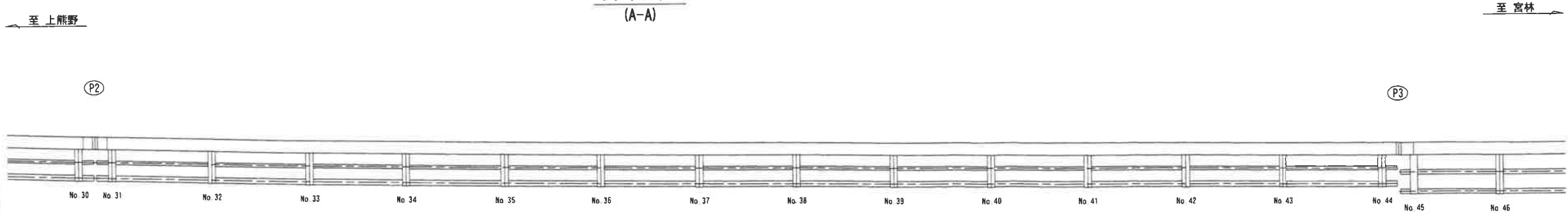
工事名	城平跨線橋 地覆補修工(その10)
図面名	城平跨線橋 地覆補修工(その10)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 14 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課



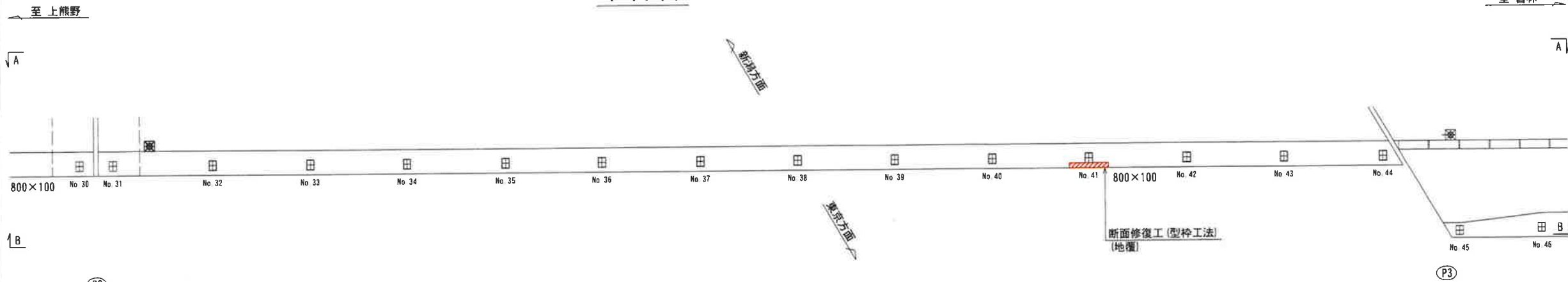
城平跨線橋 地覆補修工(その11) S=1/50

(地覆 東京側P2-P3径間)

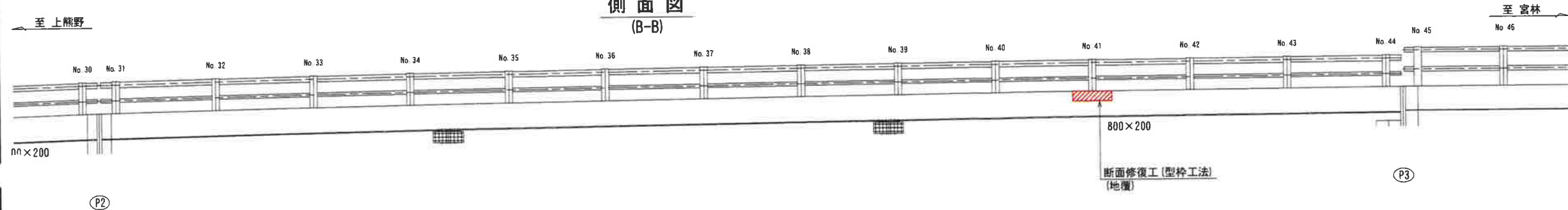
側面図  
(A-A)



平面図

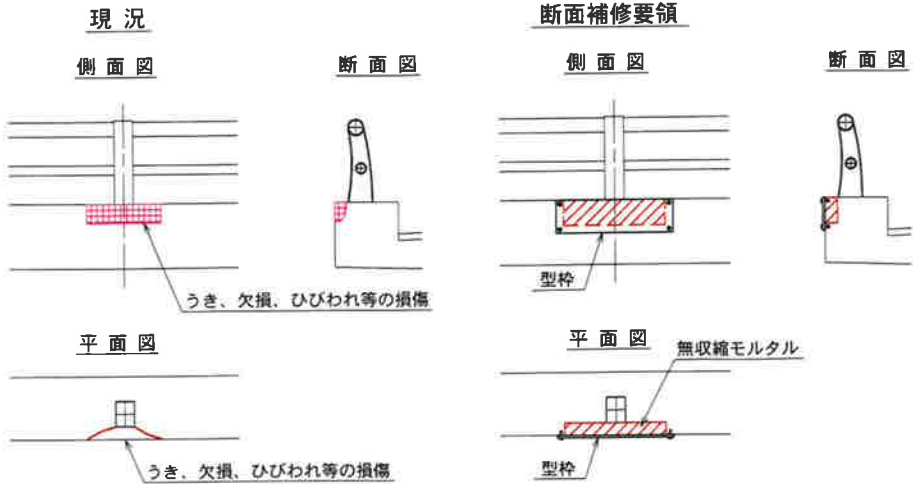


側面図  
(B-B)



断面修復工

型枠工法



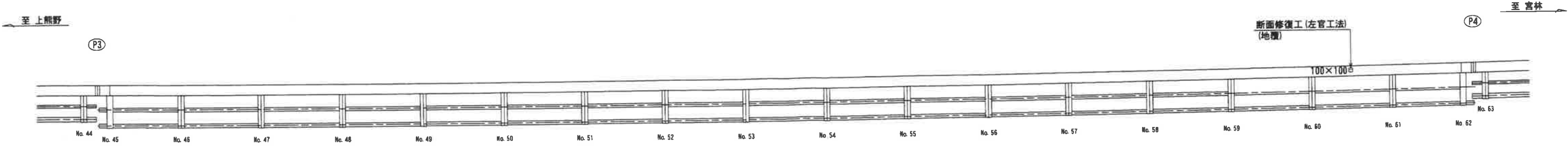
- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 地覆補修工(その11)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	15 /
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

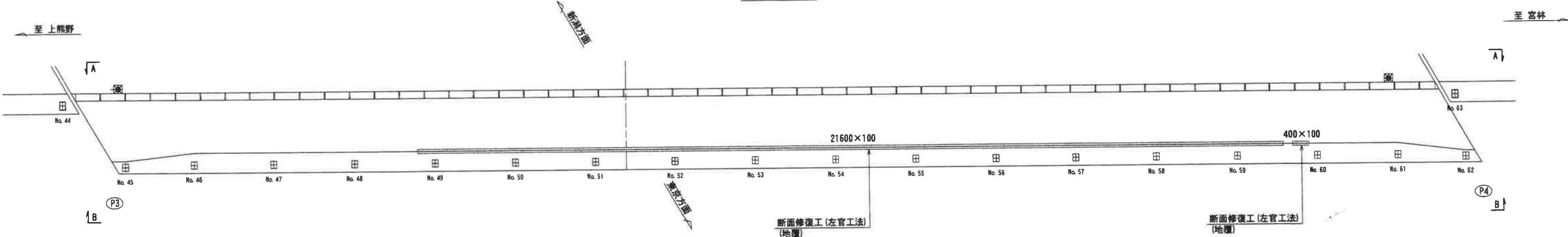
城平跨線橋 地覆補修工 (その12) S=1/50

(地覆 東京側P3-P4径間)

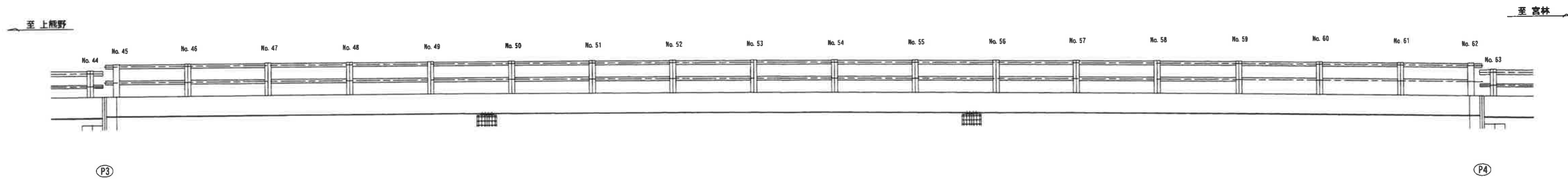
側面図  
(A-A)



平面図

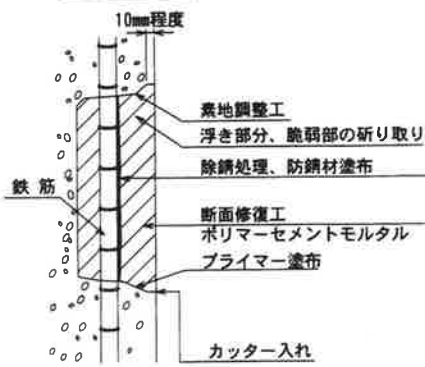


側面図  
(B-B)



断面修復工

左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
  - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
  - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
  - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
  - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

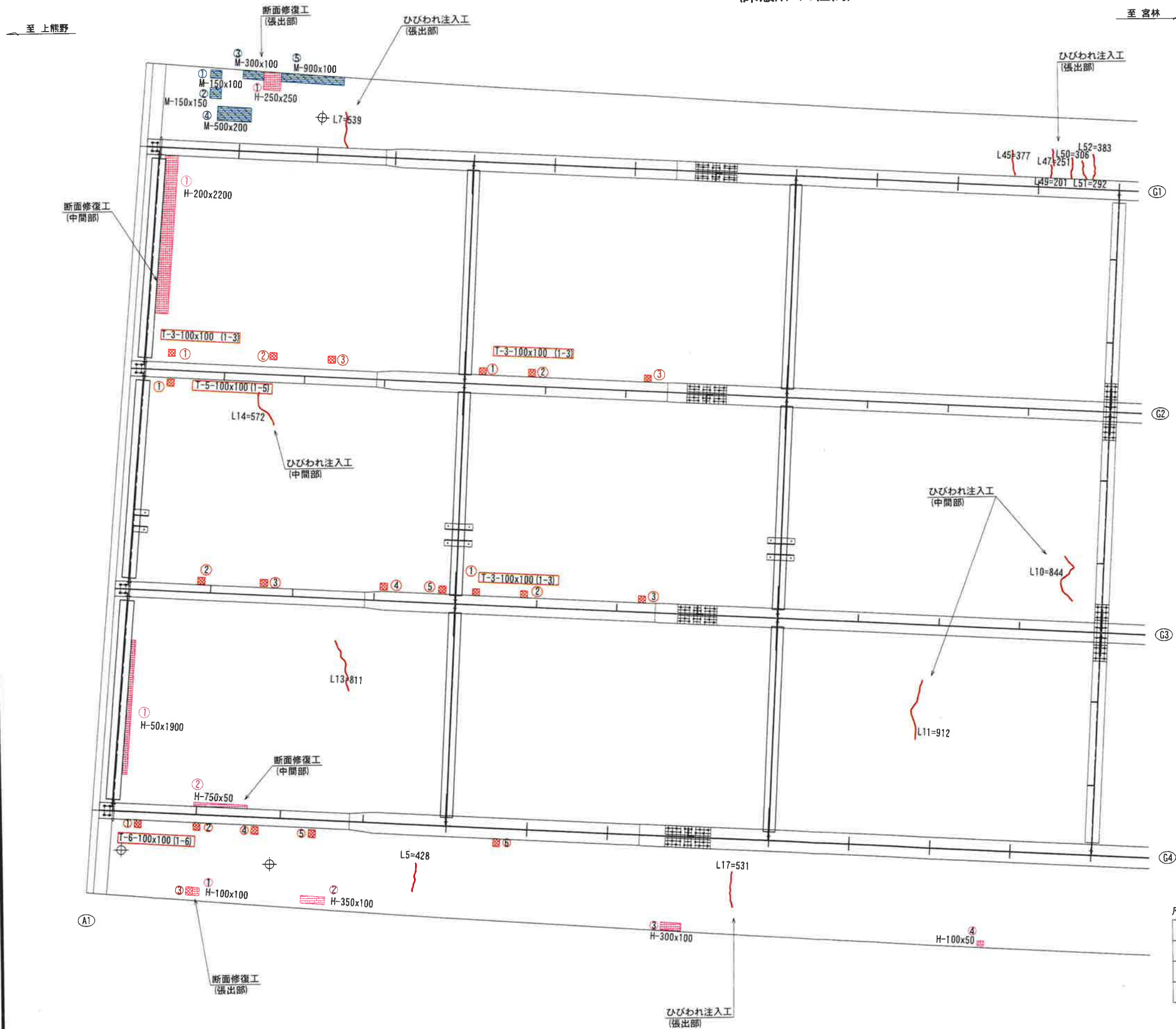
凡例

断面修復工 (左官工法) (地覆)	別離
-------------------	----

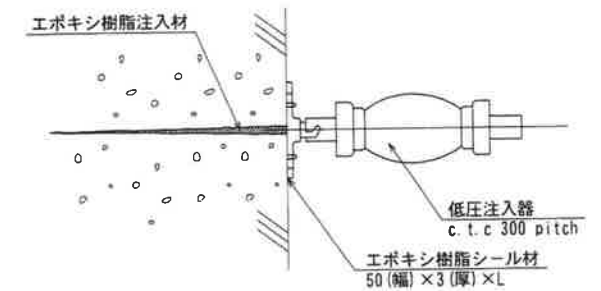
- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 地覆補修工 (その12)
図面名	城平跨線橋 地覆補修工 (その12)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 16 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

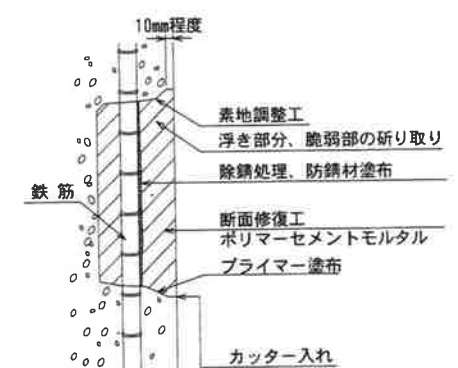
(床版A1-P1径間)



### ひびわれ注入工



### 断面修復工 左官工法



- 注記)
- 補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
  - 断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
  - 断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
  - 断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
  - かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

### 凡例

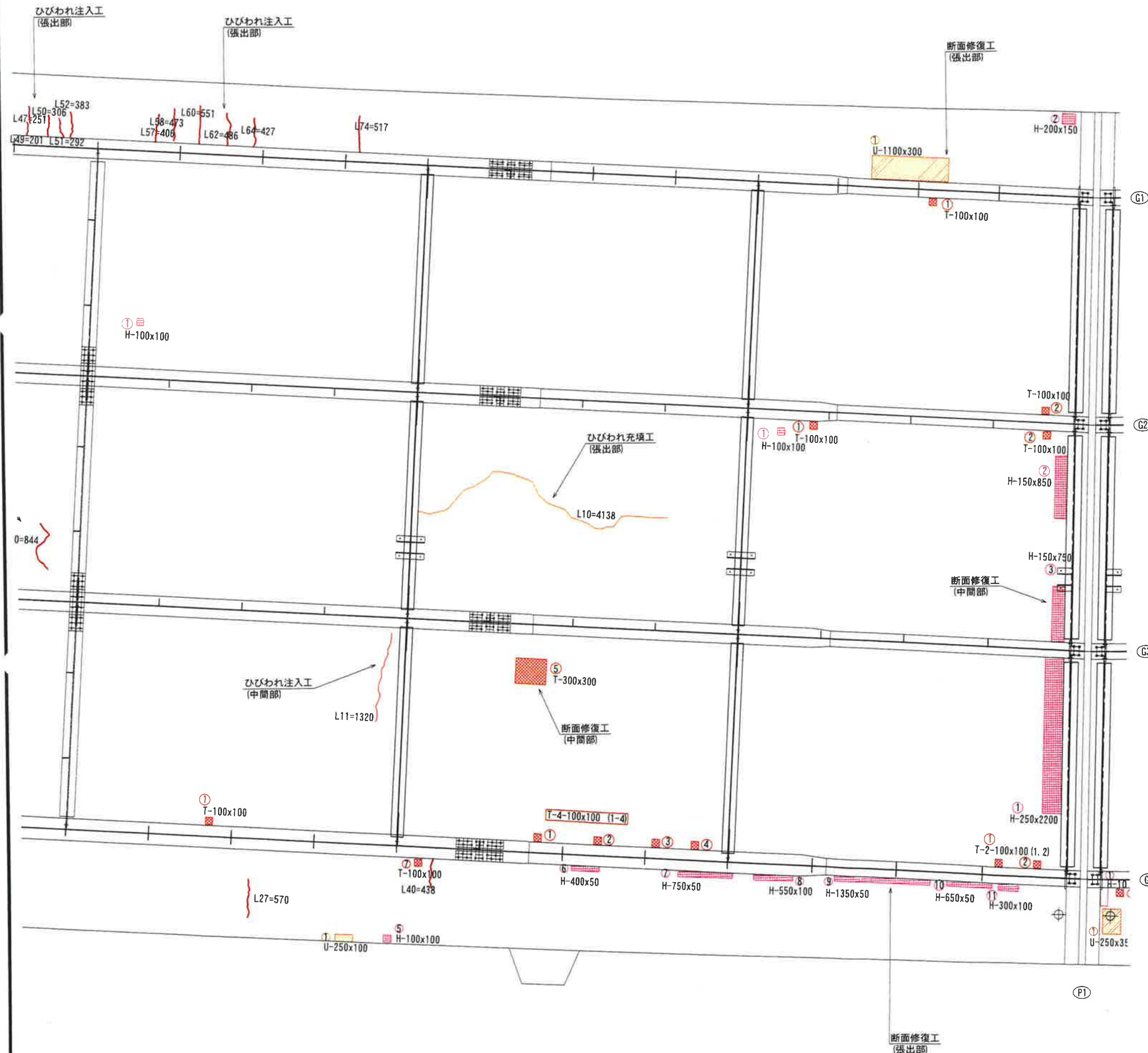
	0.2mm以上のひびわれ
	鉄筋露出
	剥離
	豆板

工事名	城平跨線橋 床版補修工(その1)
図面名	城平跨線橋 床版補修工(その1)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 28 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

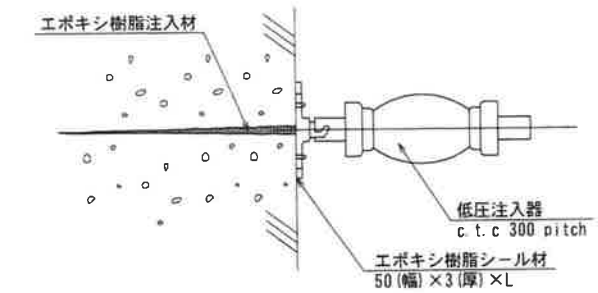


(床版A1-P1径間)

至 宮林

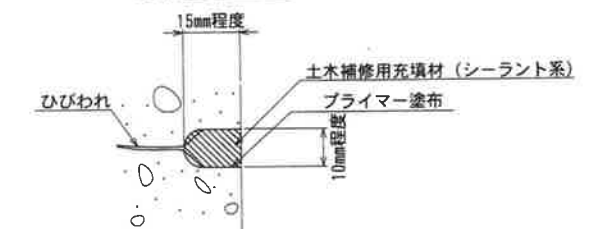


## ひびわれ注入工

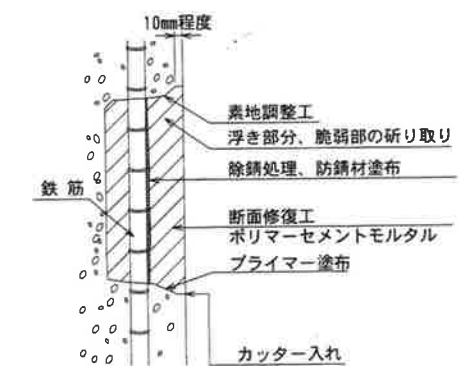


## ひびわれ充填工

### Uカット充填工法



## 断面修復工 左官工法








注記)

- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- ・断面修復箇所及び数量は、現地に確認すること。
- ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

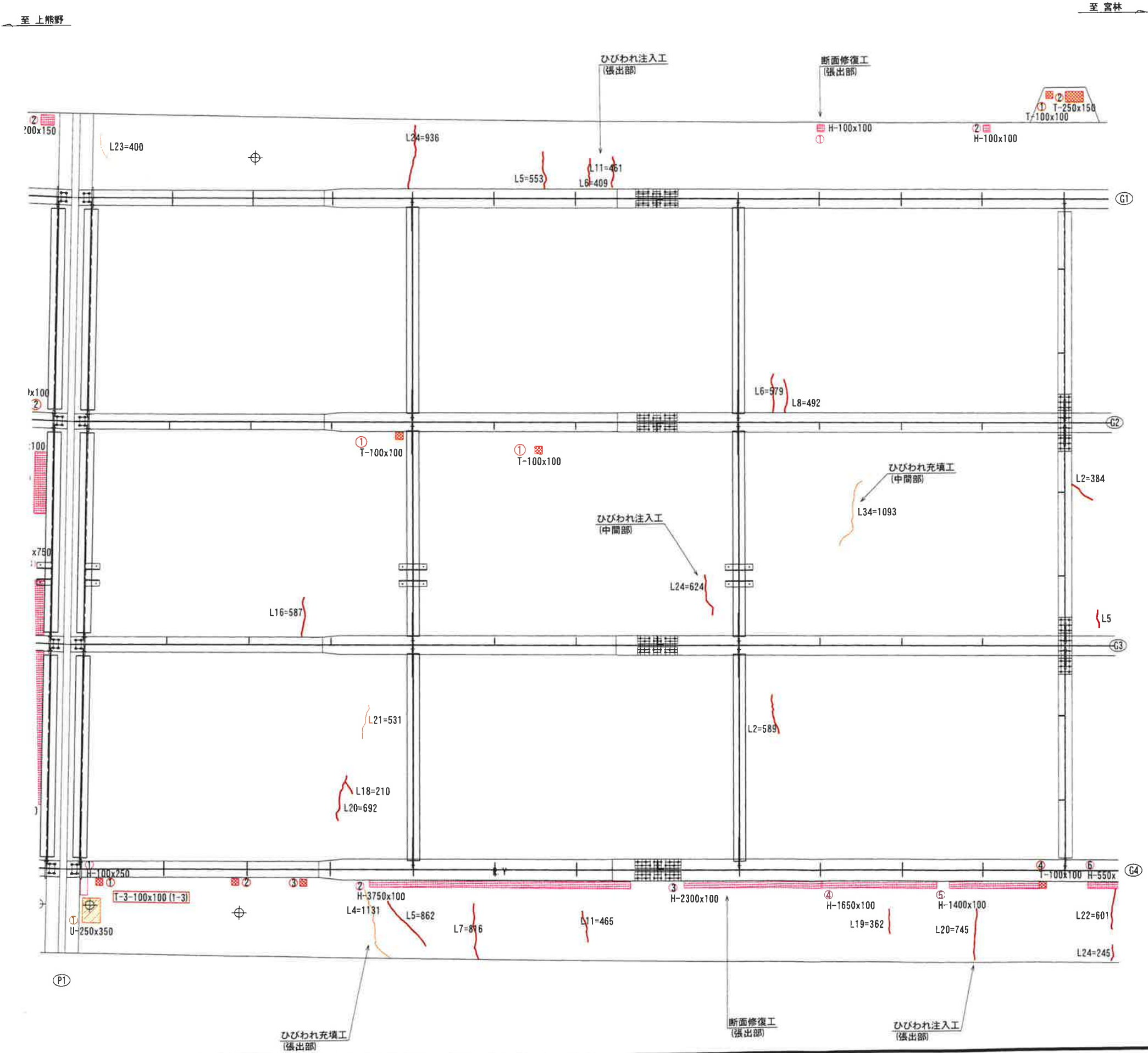
注記)

- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

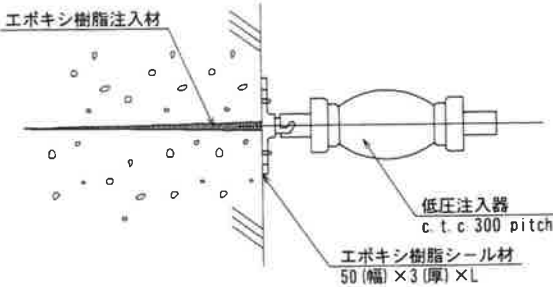
凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	打雑ぎ
	鉄筋露出
	剥離
	うき

工 事 名			
図 面 名	城平跨線橋 床版補修工(その2)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	29 /
会 社 名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湊沢町地域整備部建設課		

(床版P1-P2径間)

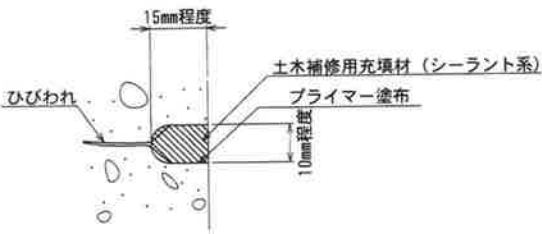


ひびわれ注入工



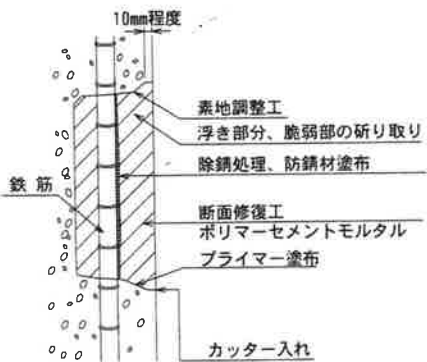
ひびわれ充填工

Uカット充填工法



断面修復工

左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
  - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
  - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
  - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
  - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

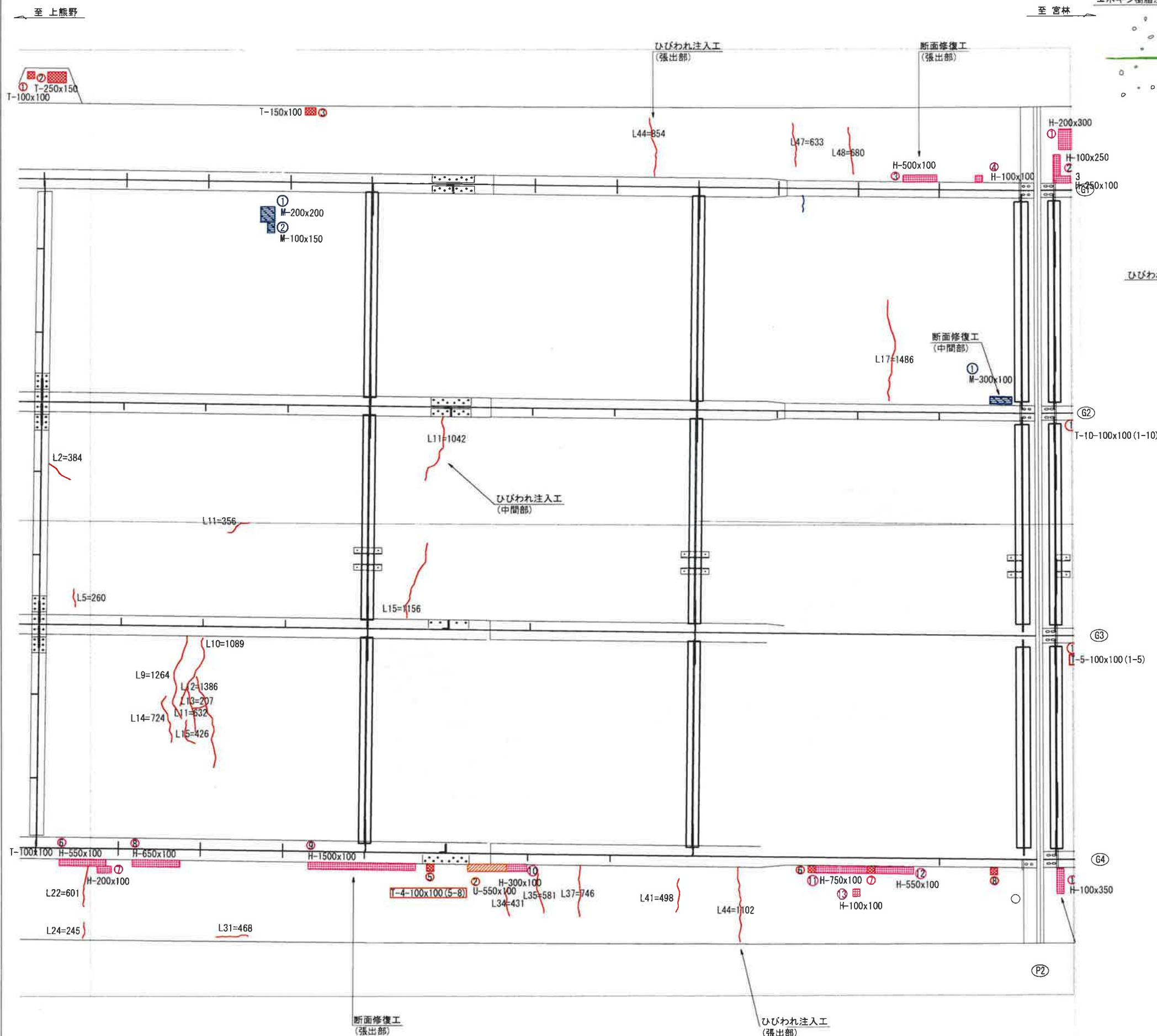
凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	鉄筋露出
	剥離
	うき

工 事 名			
図 面 名	城平跨線橋 床版補修工 (その3)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	30 /
会 社 名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

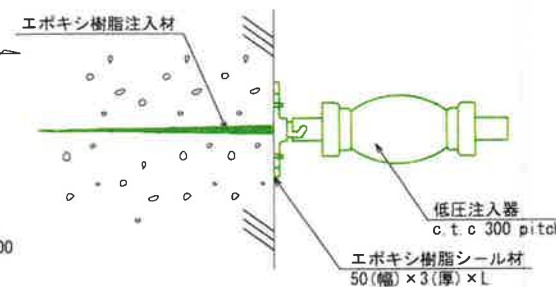


城平跨線橋 床版補修工(その4) S=1/30

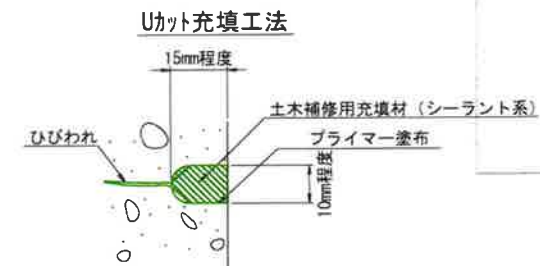
(床版P1-P2径間)



## ひびわれ注入工

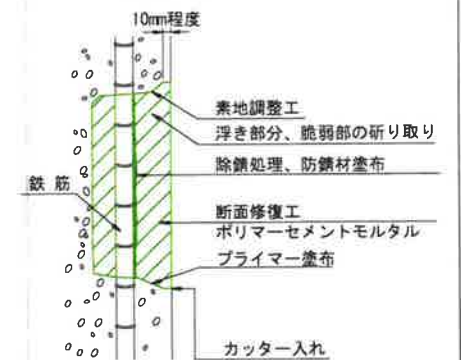


## ひびわれ充填工



### 断面修復工

### 左官工法









注記)

- ・ 補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- ・ 断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- ・ 断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- ・ 断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
- ・ かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

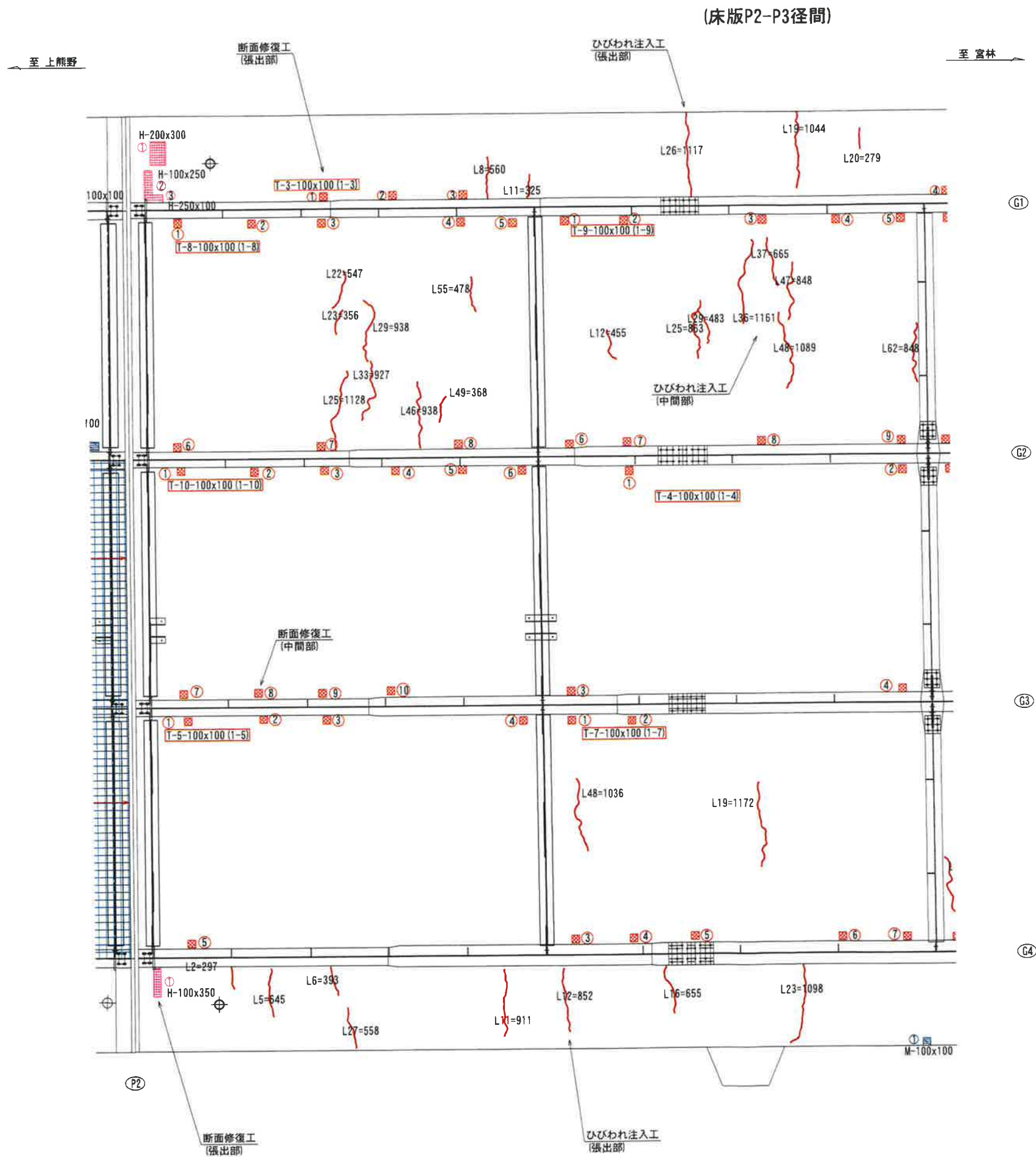
注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

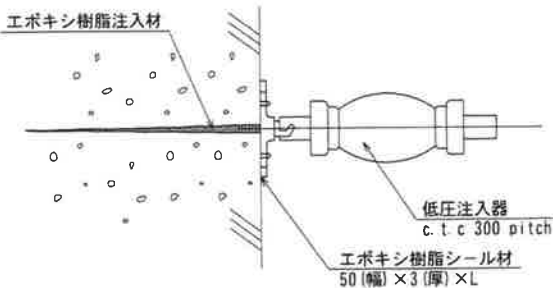
凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	打雑ぎ
	鉄筋露出
	剥離
	うき
	豆板

工 事 名	
図 面 名	城平跨線橋 床版補修工(その4)
作成年月日	平成30年12月 日
縮 尺	図 示 図面番号 31 / 85
会 社 名	
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

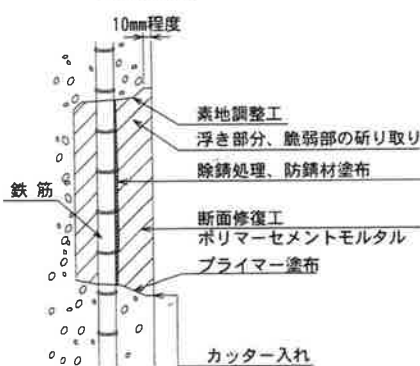




ひびわれ注入工



断面修復工  
左官工法



- 注記)
- 補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
  - 断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
  - 断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
  - 断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
  - かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

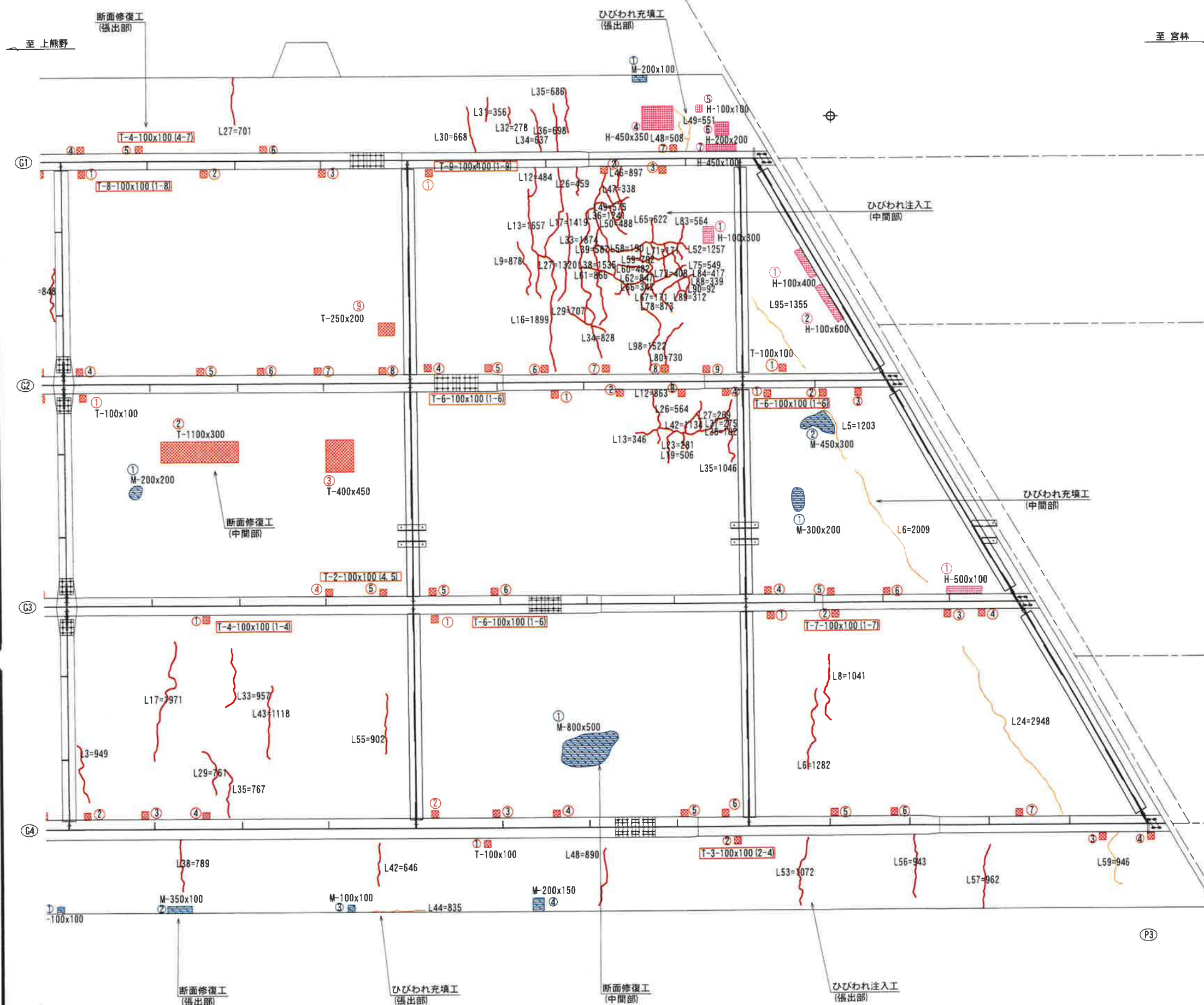
- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

凡例	
	0.2mm以上のひびわれ
	鉄筋露出
	剥離
	豆板

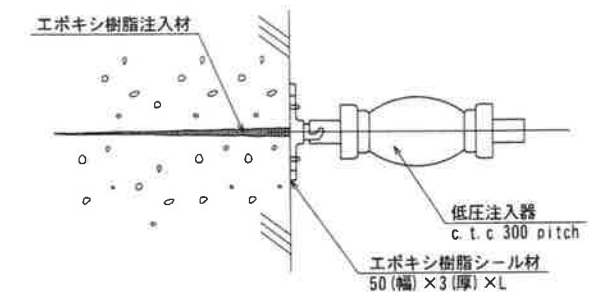
工事名	
図面名	城平跨線橋 床版補修工 (その5)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 32 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 床版補修工(その6) S=1/30

(床版P2-P3径間)

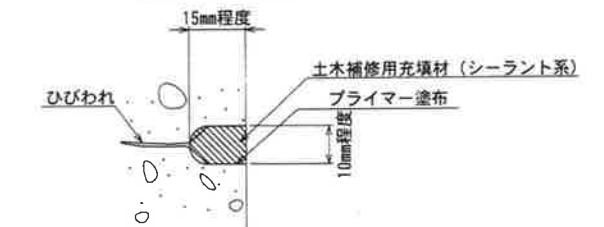


## ひびわれ注入工

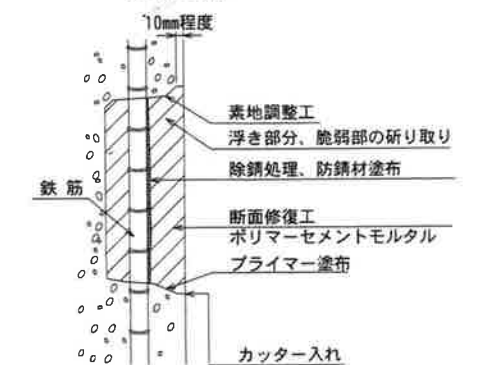


## ひびわれ充填工

### Uカット充填工法



## 断面修復工 左官工法



(注記)

- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
- ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

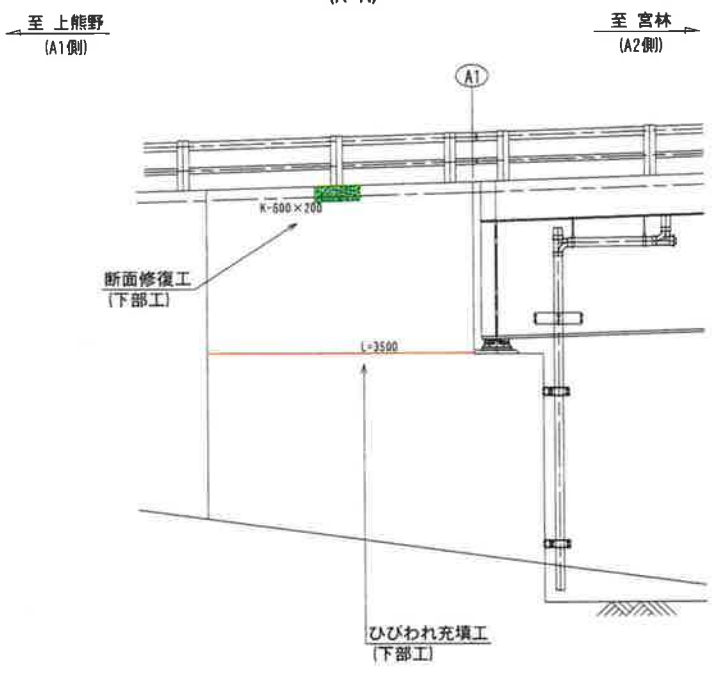
凡例		工事名		
	0.2mm以上のひびわれ	図面名	城平跨線橋 床版補修工(その6)	
	打継ぎ	作成年月日	平成30年12月 日	
	鉄筋露出	縮尺	図示	図面番号 33 /
	剥離	会社名	株式会社 構造技研新潟	
	豆板	事業者名	湯沢町地域整備部建設課	



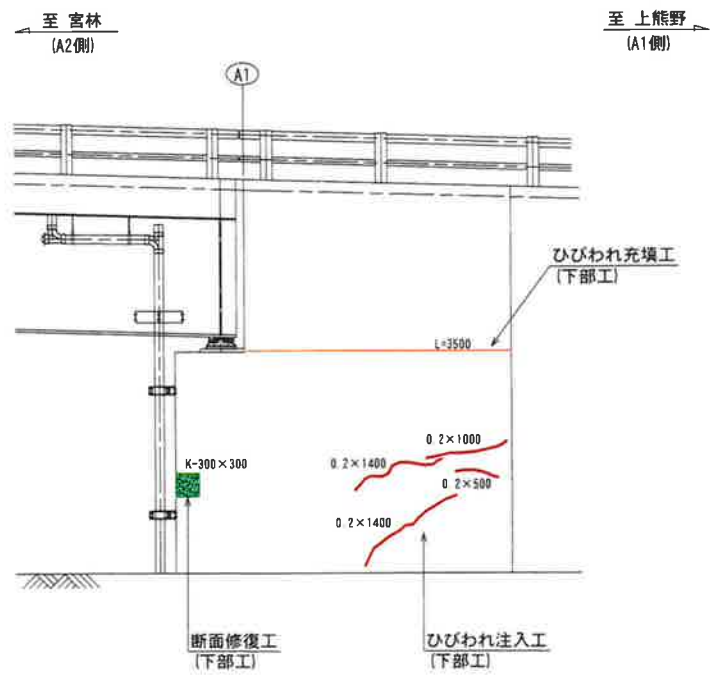
城平跨線橋 下部工補修工(その1) S=1/50

A1橋台

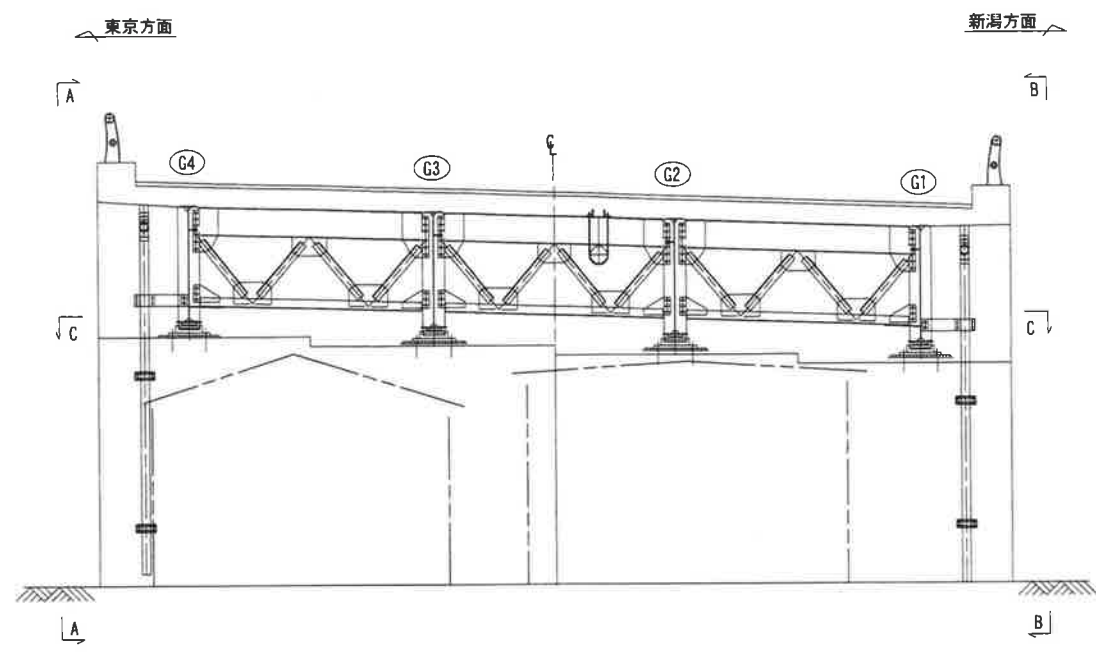
側面図  
(A-A)



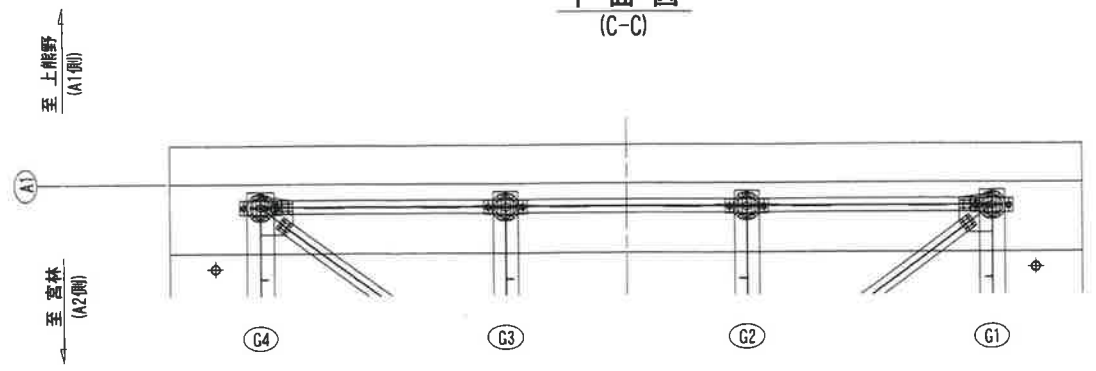
側面図  
(B-B)



正面図



平面図  
(C-C)



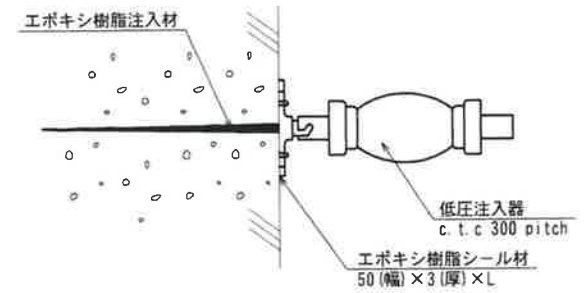
凡例

	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ
	欠損

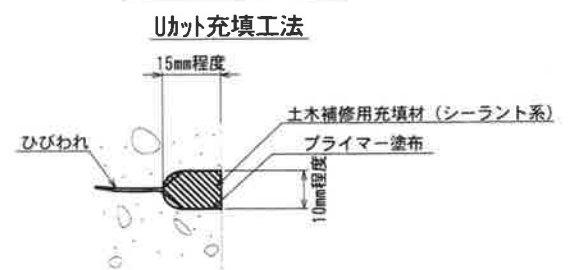
注記

- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

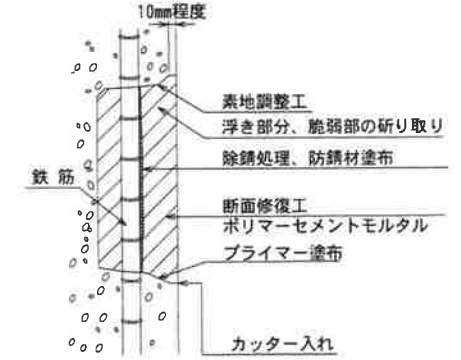
ひびわれ注入工



ひびわれ充填工



断面修復工  
左官工法



注記

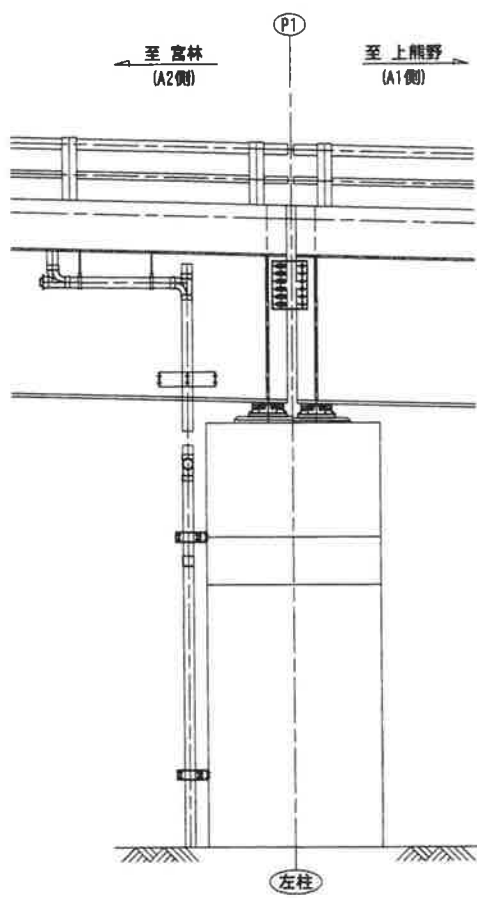
- 補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- 断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- 断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- 断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
- かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

工事名	城平跨線橋 下部工補修工(その1)
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その1)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 66 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

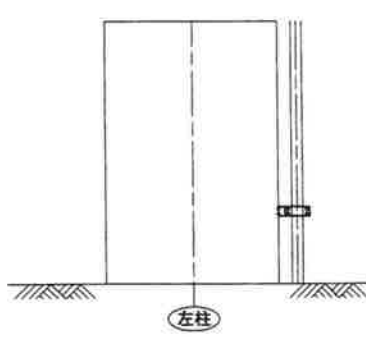


P1橋脚-起点側

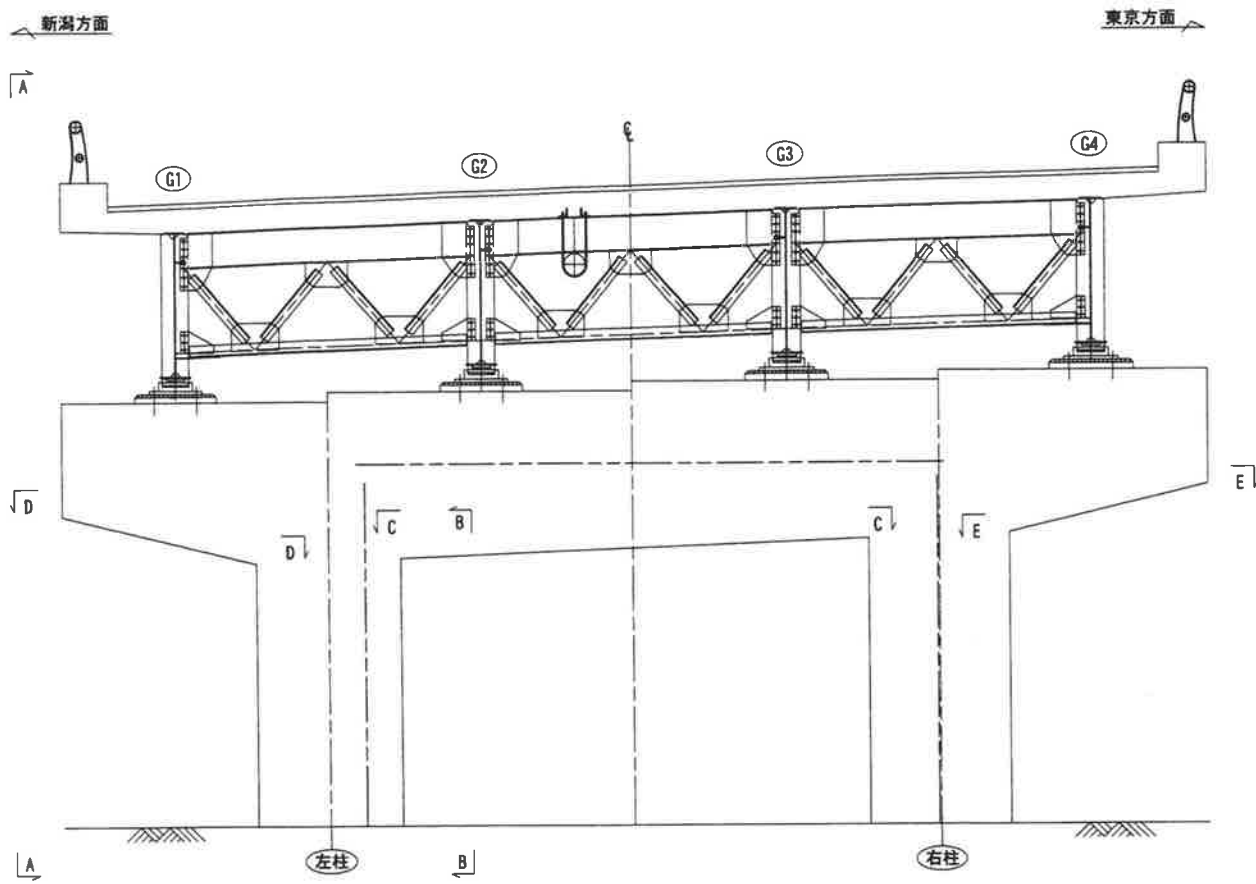
側面図  
(A-A)



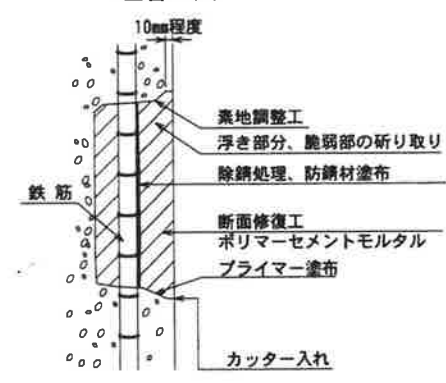
側面図  
(B-B)



正面図

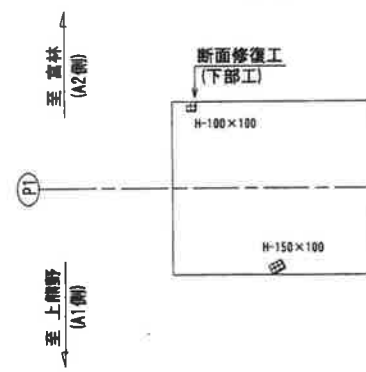


断面修復工  
左官工法

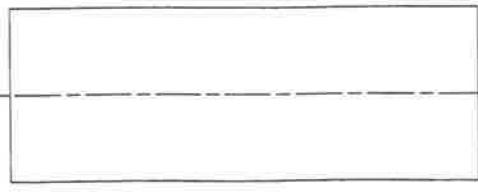


- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
  - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
  - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
  - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
  - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

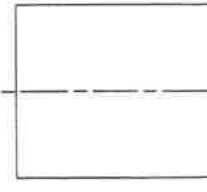
平面図  
(D-D)



平面図  
(C-C)



平面図  
(E-E)



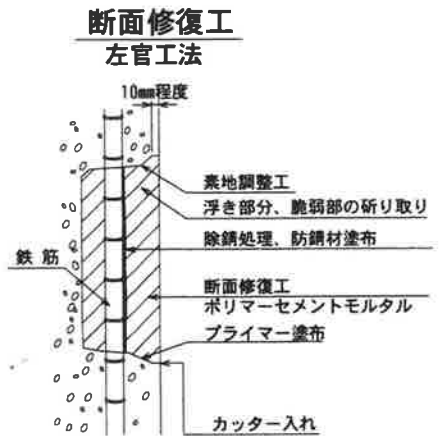
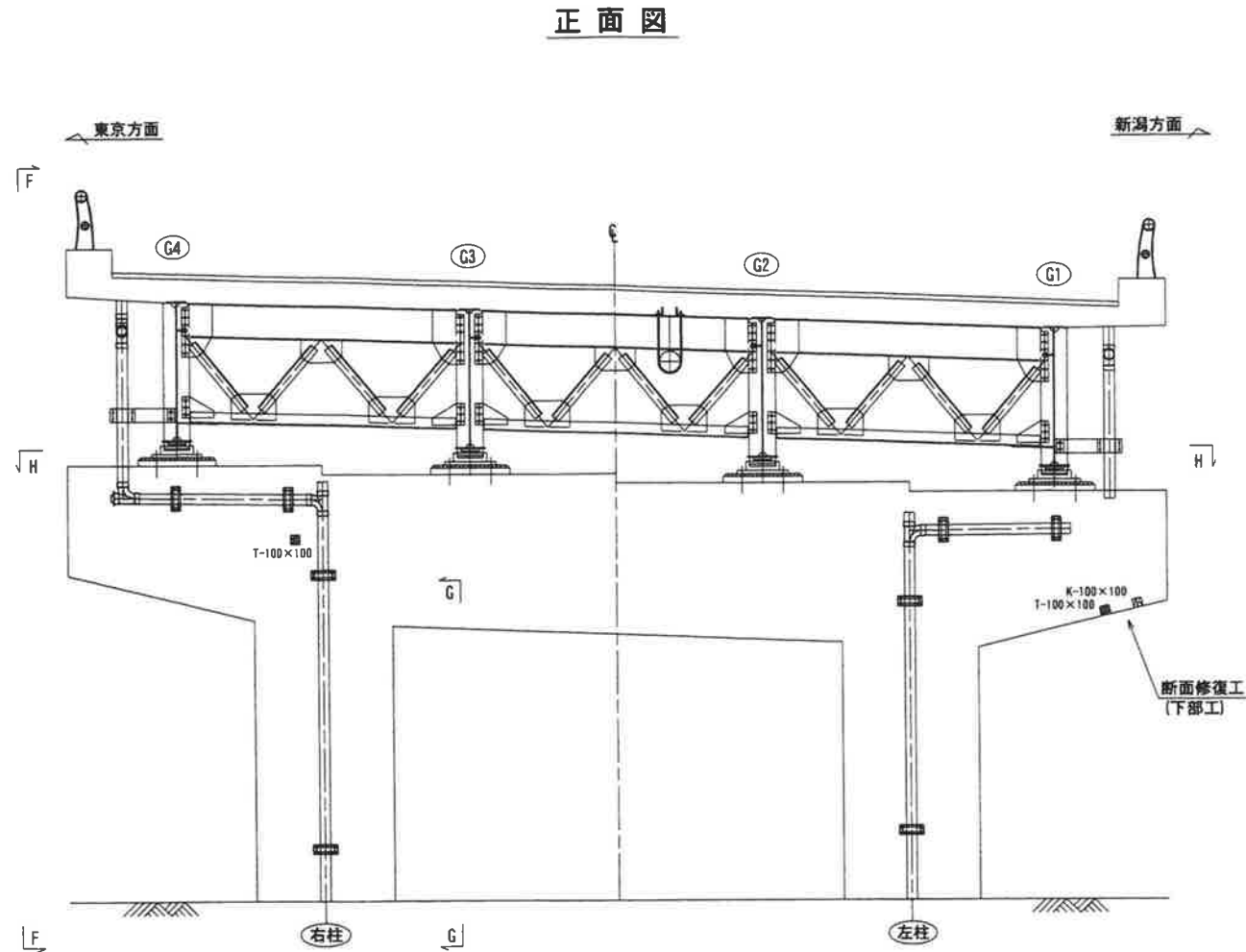
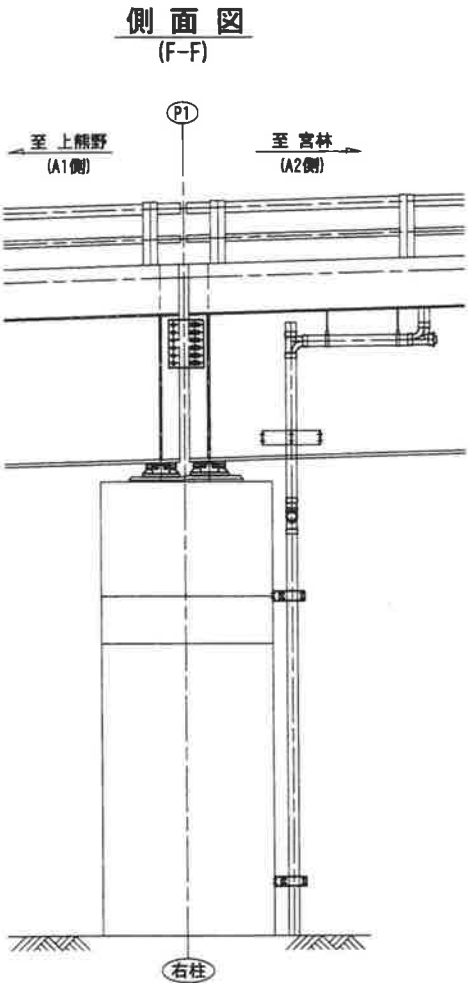
凡例

断面修復工	剥離
-------	----

- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

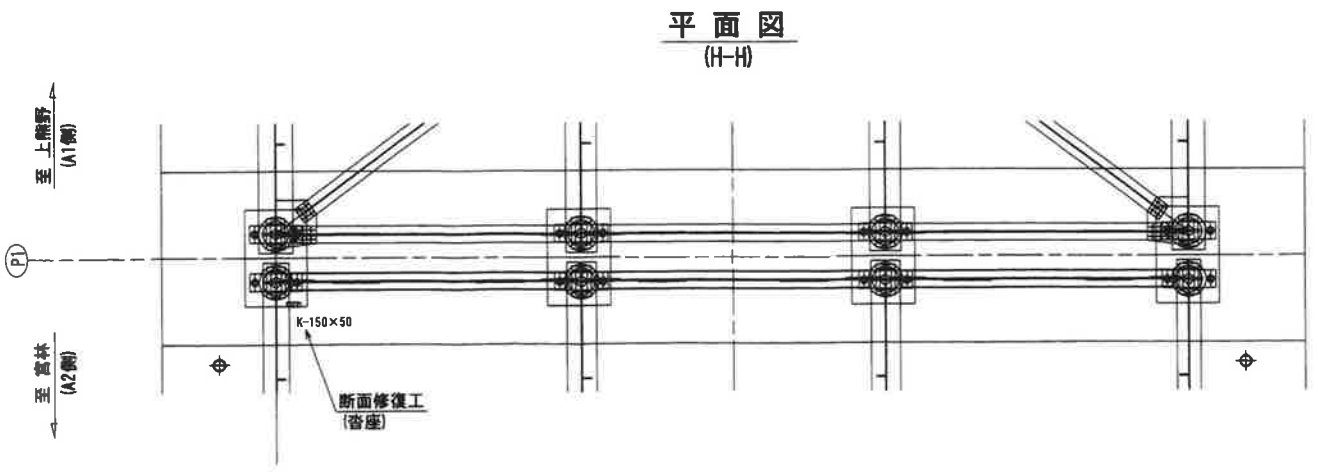
工事名	城平跨線橋 下部工補修工(その2)
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その2)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 67 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

P1橋脚-終点側



注記)

- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
- ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。



凡例

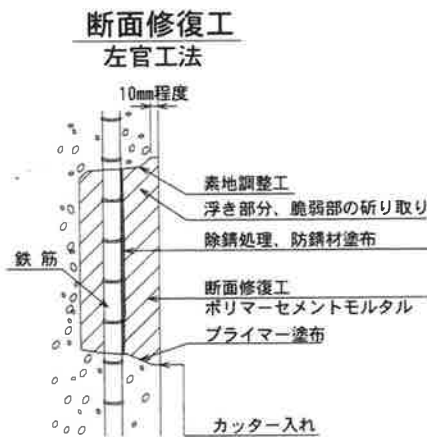
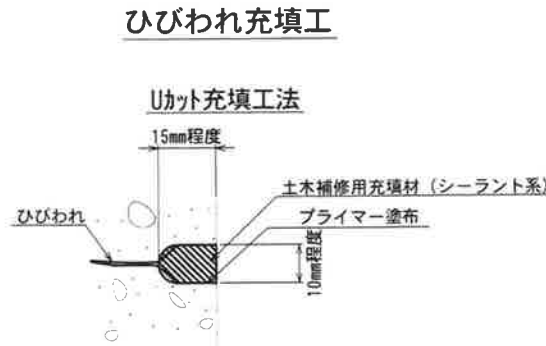
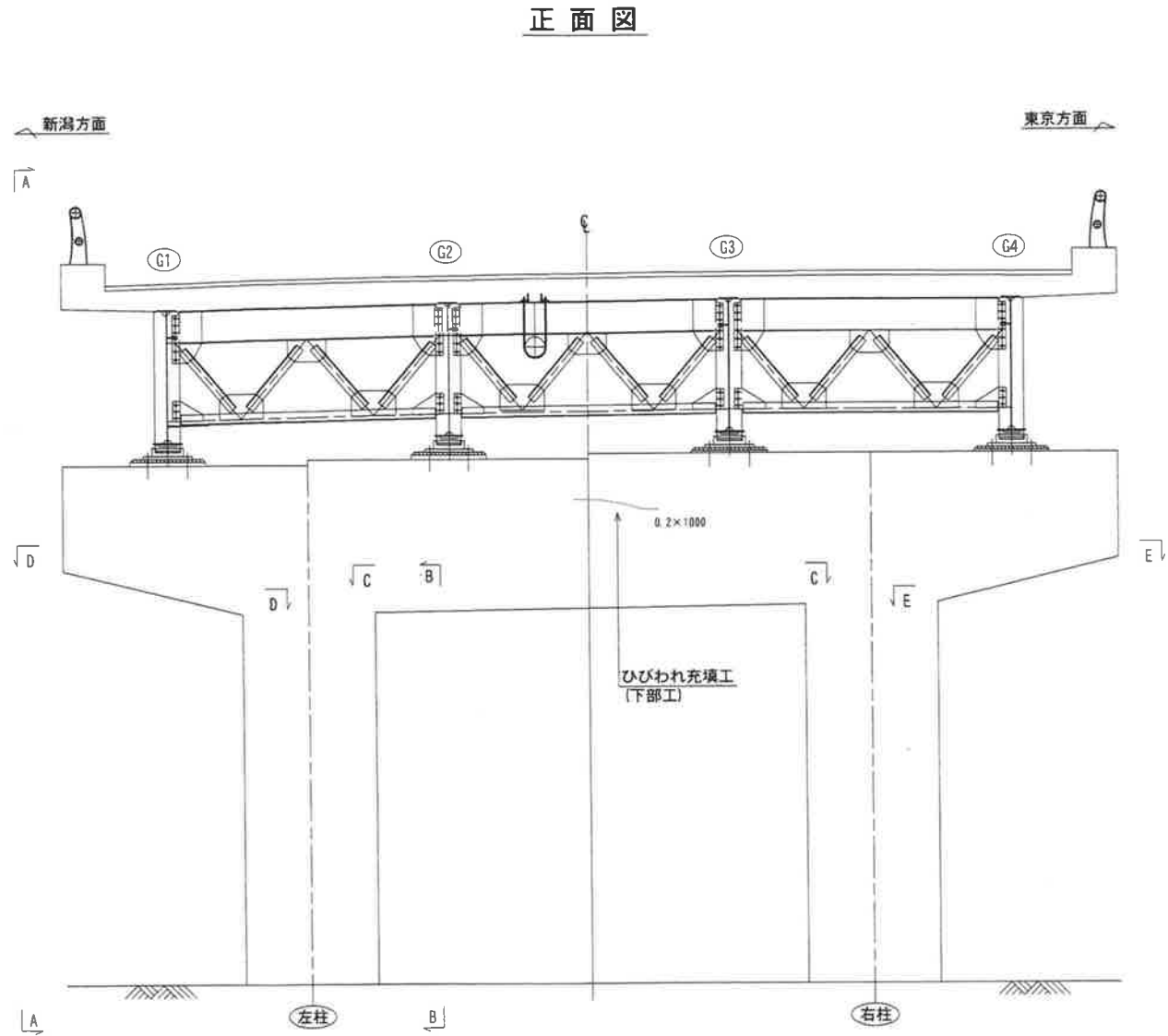
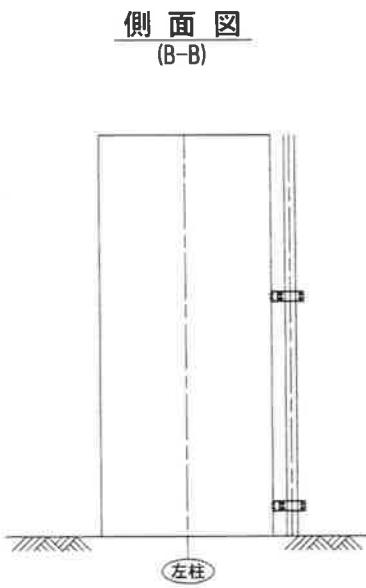
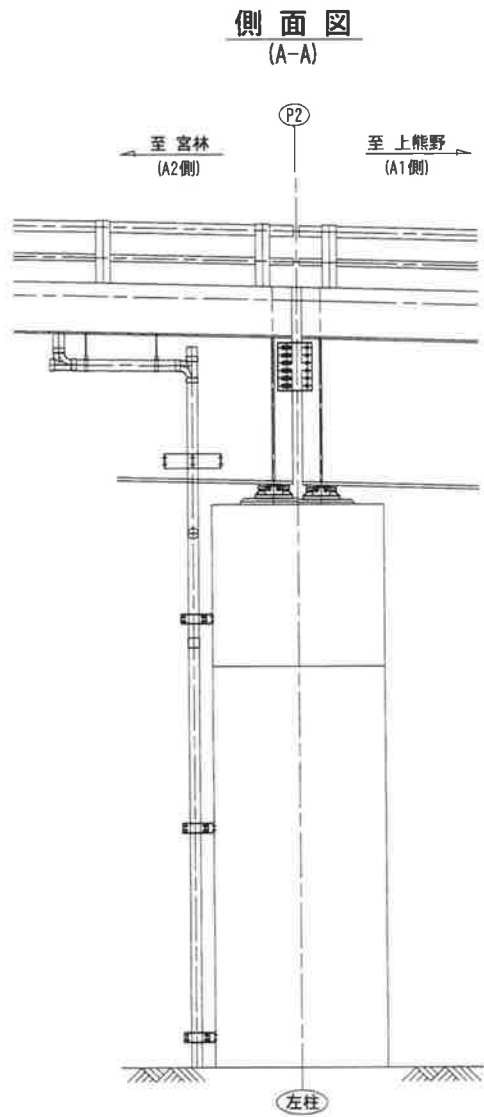
鉄筋露出	
欠損	

注記)

1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 下部工補修工(その3)
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その3)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 68 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業署名	湯沢町地域整備部建設課

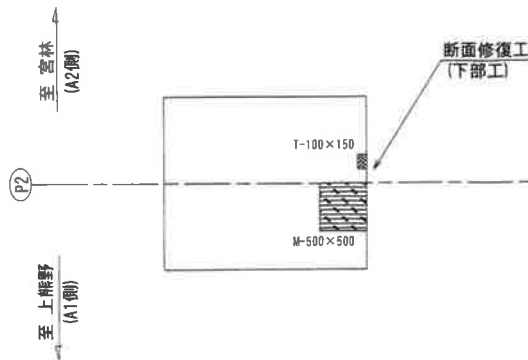
P2橋脚-起点側



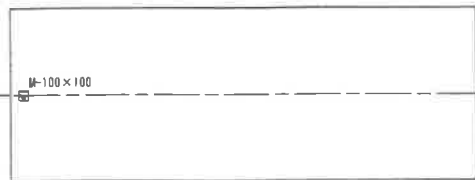
注記)

- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
- ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
- ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
- ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
- ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

平面図 (D-D)



平面図 (C-C)



平面図 (E-E)



凡例

打継ぎ
鉄筋露出
豆板

注記)

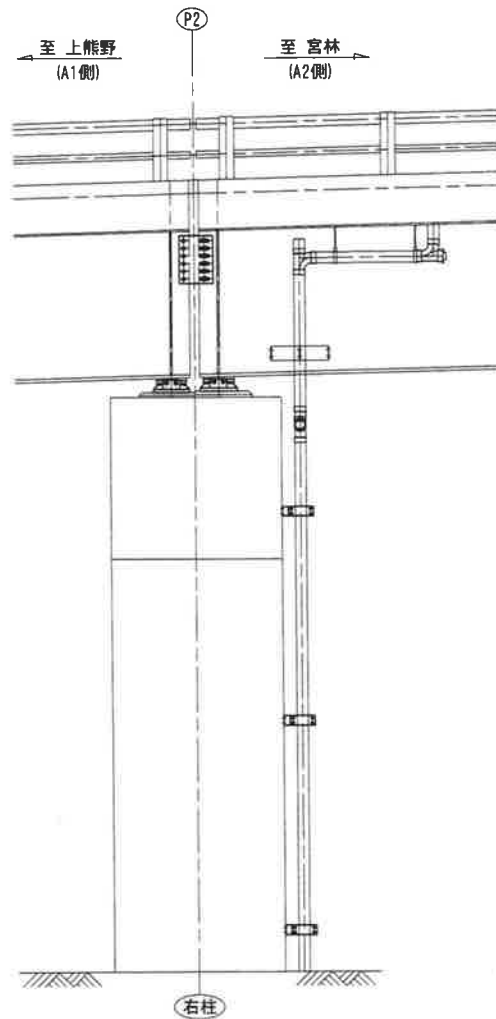
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その4)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示
図面番号	69 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

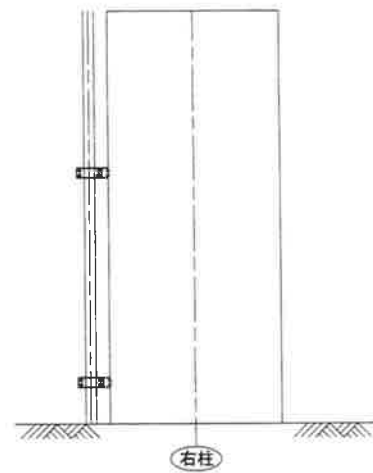


P2橋脚-終点側

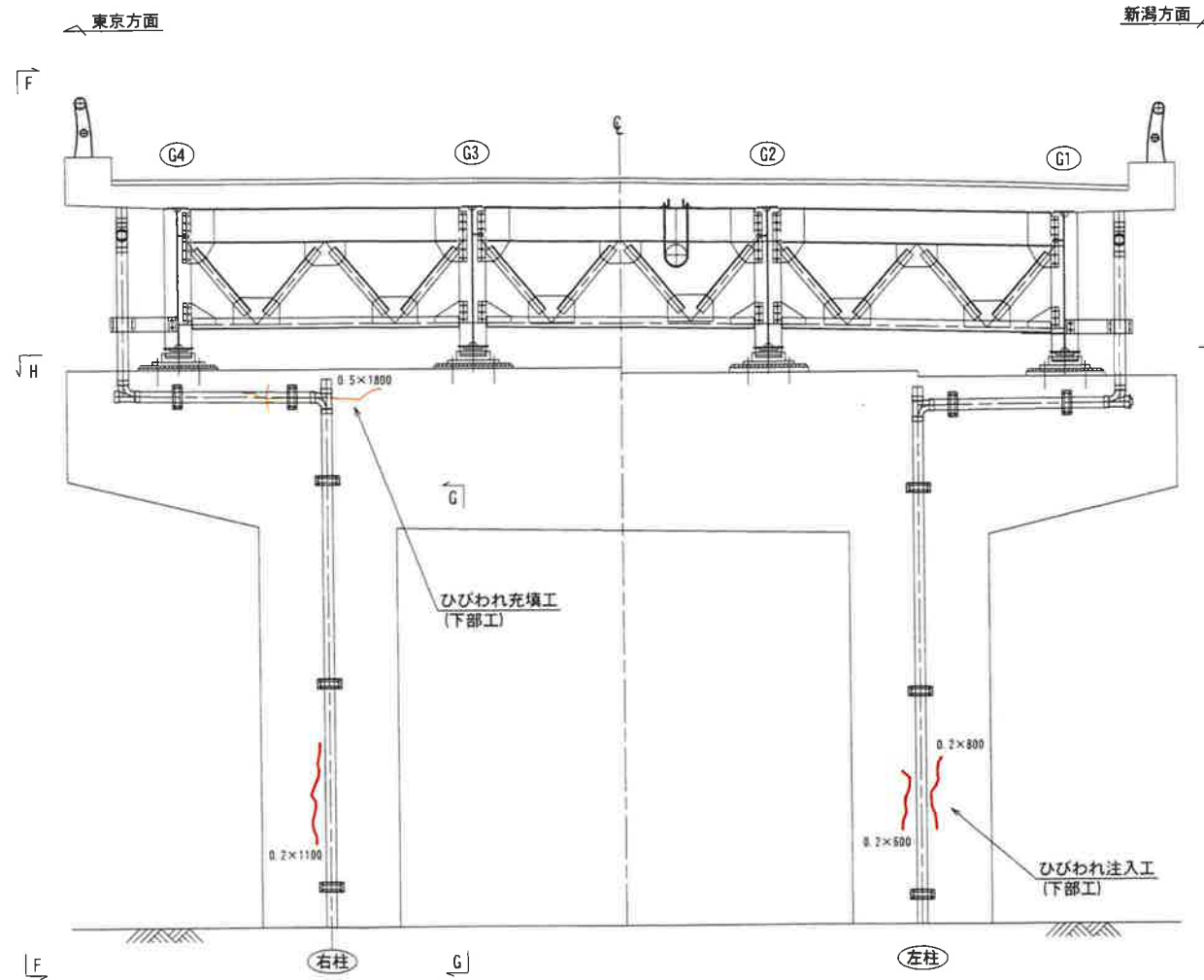
側面図  
(F-F)



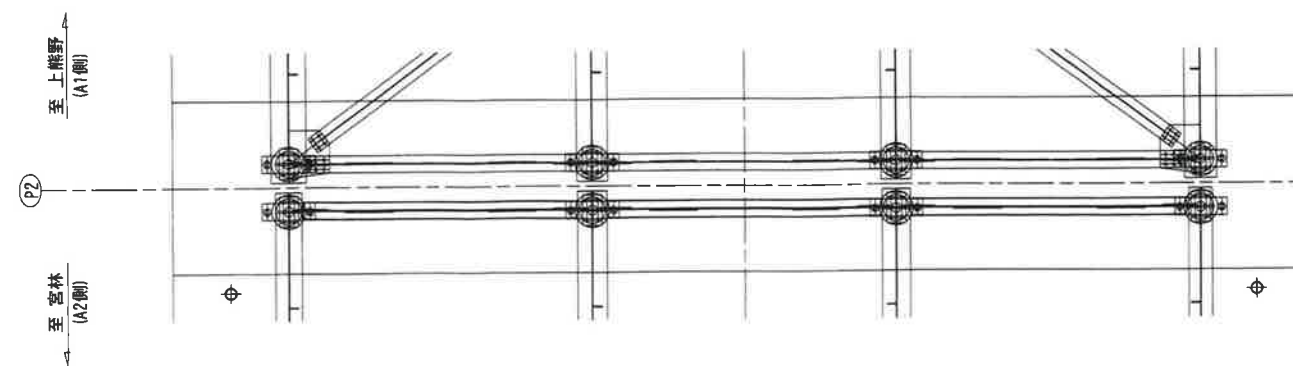
側面図  
(G-G)



正面図



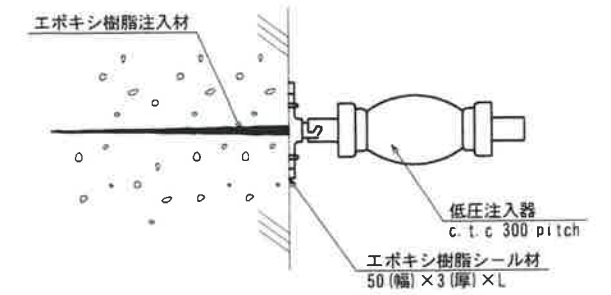
平面図  
(H-H)



凡例

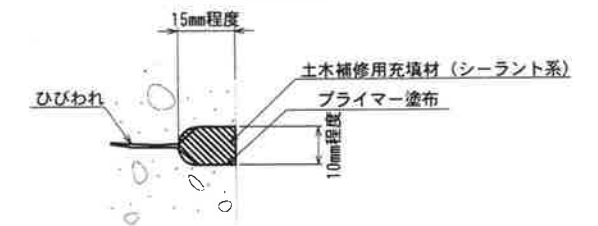
	0.2mm以上のひびわれ
	打継ぎ

ひびわれ注入工



ひびわれ充填工

Uカット充填工法

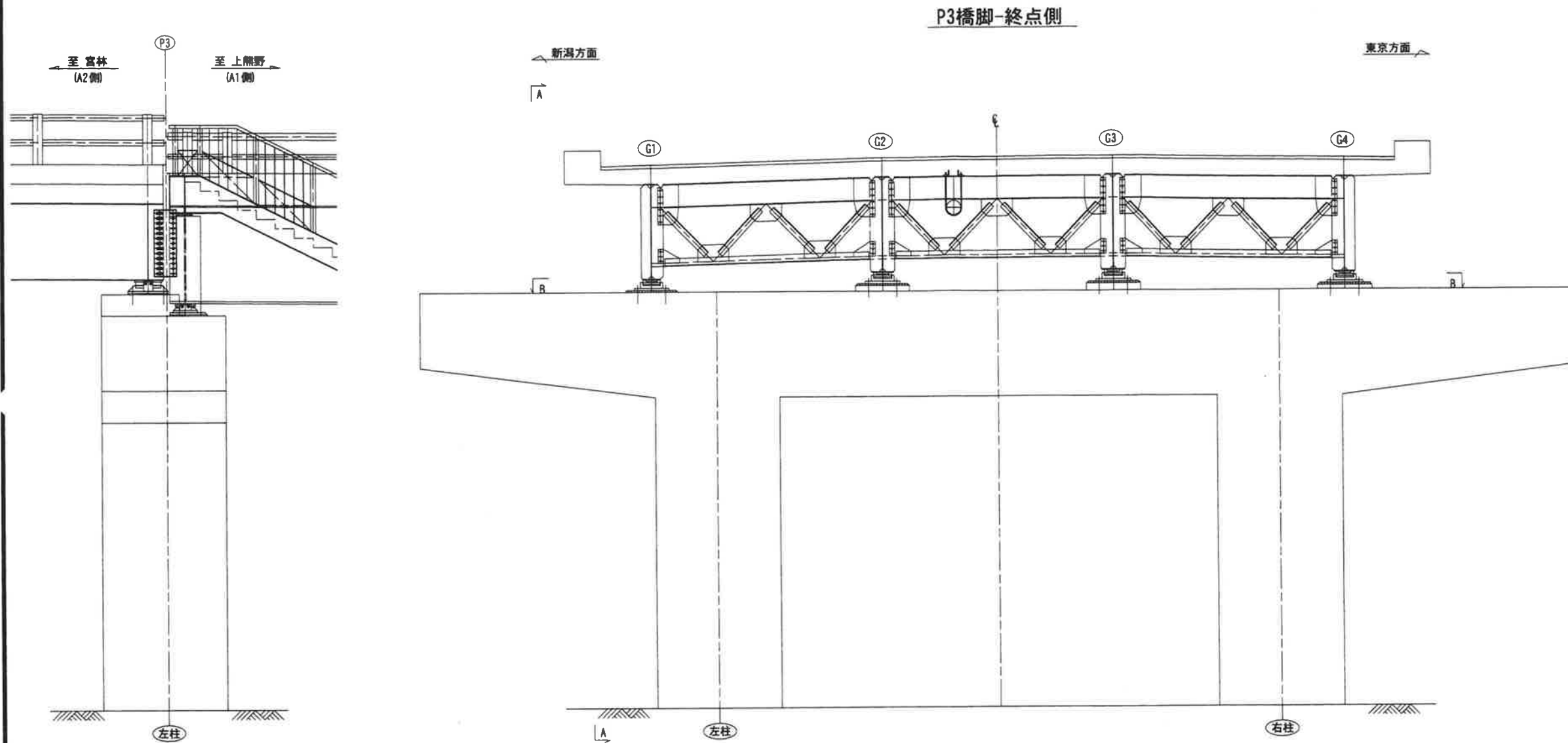


注記)

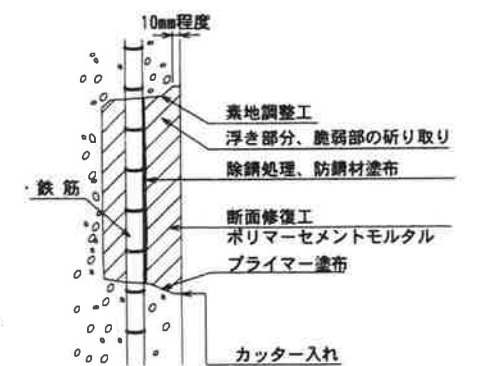
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
- 施工に際しては、必ず現地に於て補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
- 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その5)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 70 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

# 城平跨線橋 下部工補修工(その6) S=1/40

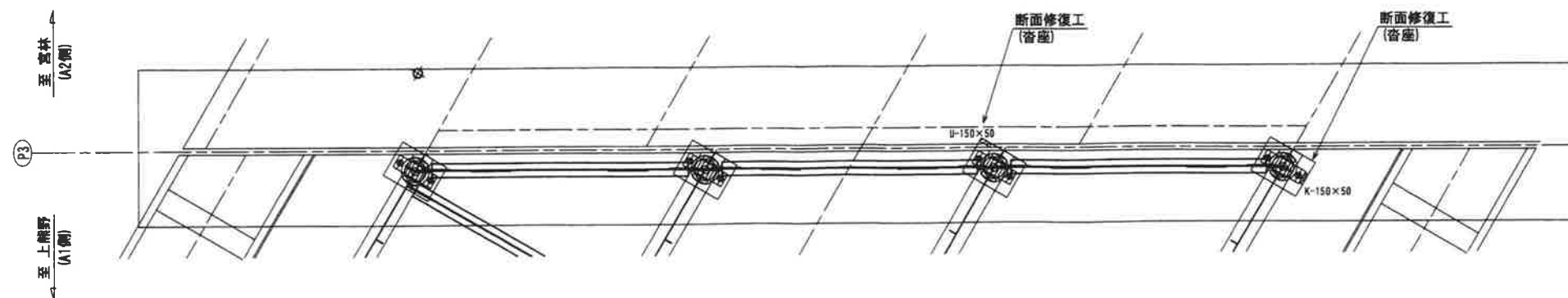


## 断面修復工 左官工法



- 注記)
- ・補修範囲に10mm程度カッターを入れてから施工すること。
  - ・断面修復は、脆弱部をたたき落とした上で実施すること。
  - ・断面修復の際は、鉄筋に防錆処理を施すこと。
  - ・断面修復箇所及び数量は、現地にて確認すること。
  - ・かぶり厚が十分確保できない場合は、補修材を盛ること。

## 平面図 (B-B)



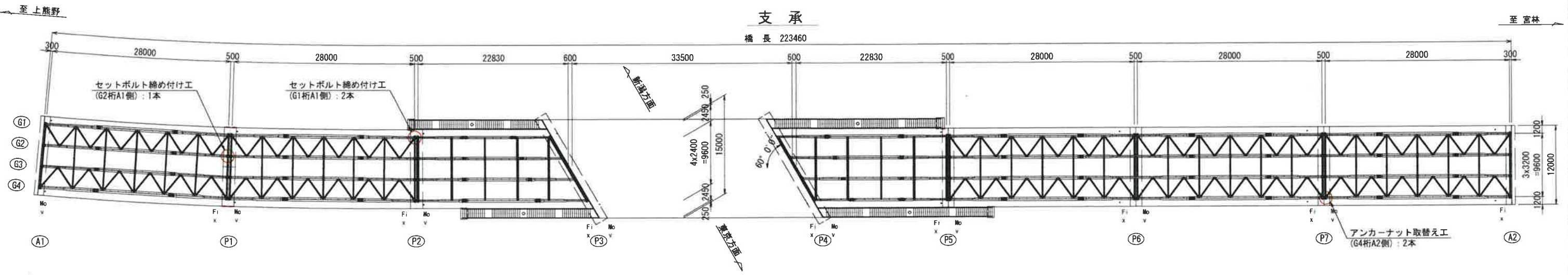
凡例	
	うき
	欠損

- 注記)
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

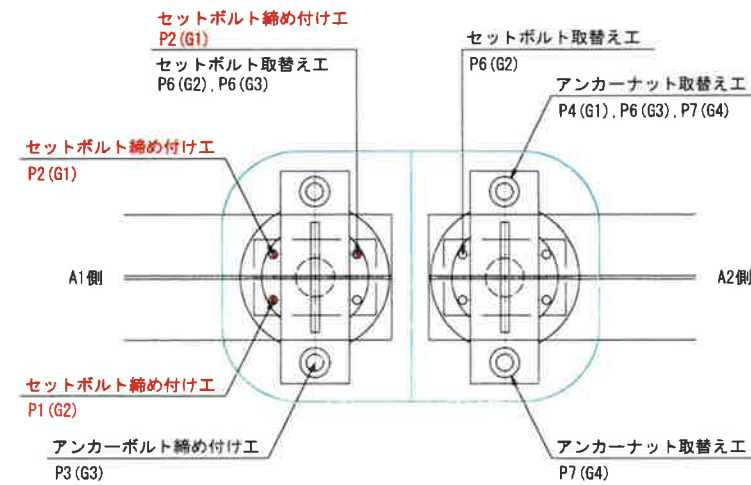
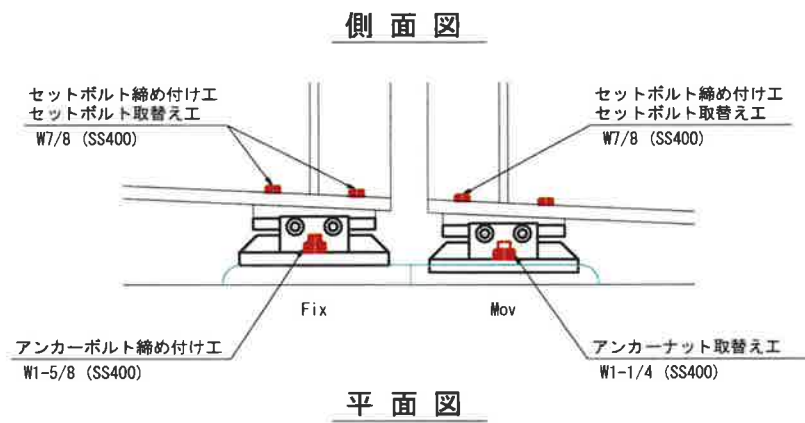
工事名	
図面名	城平跨線橋 下部工補修工(その6)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 71 /
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 支承補修工

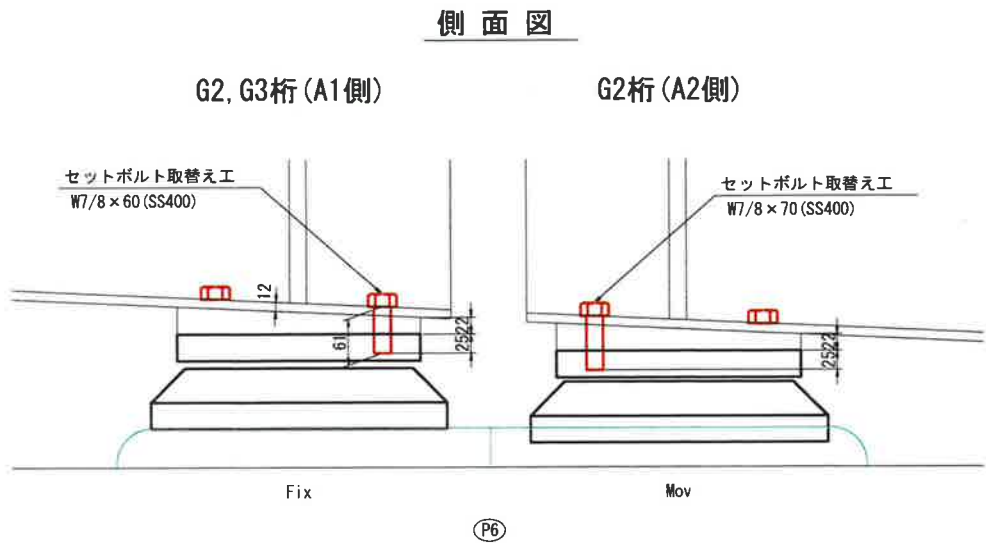
位置図 S=1/300



支承補修概要図 S=1/10



セットボルト詳細図 S=1/5



支承補修数量

アンカーナット取替え工 : W1-1/4ナット (SS400) 4個

アンカーボルト締め付け工 : W1-5/8 (SS400) 1本

セットボルト締め付け工 : W7/8 (SS400) 4本

セットボルト取替え工 : 2-W7/8 x 60 (SS400)  
1-W7/8 x 70 (SS400)

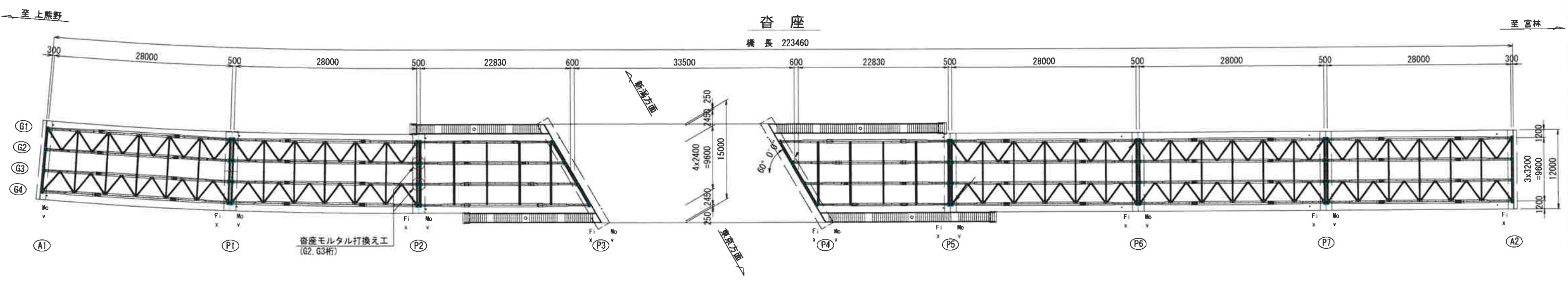
- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 支承補修工
図面名	城平跨線橋 支承補修工
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 46 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課



城平跨線橋 沓座補修工

位置図 S=1/300

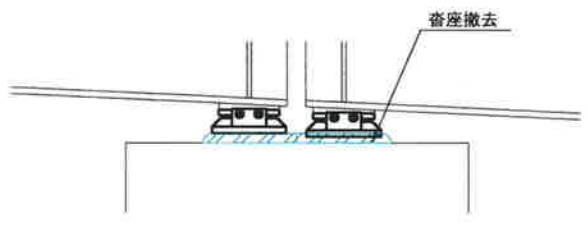


沓座補修概要図 S=1/20

P2  
(2箇所)

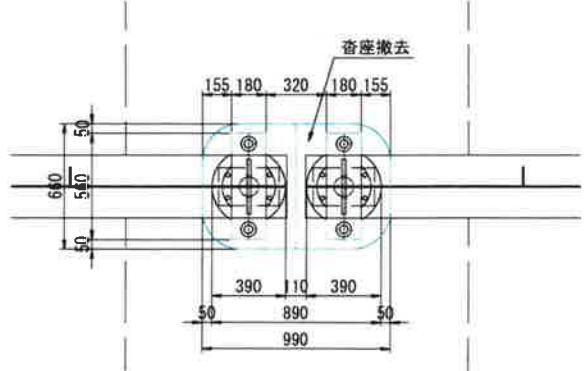
現況

側面図



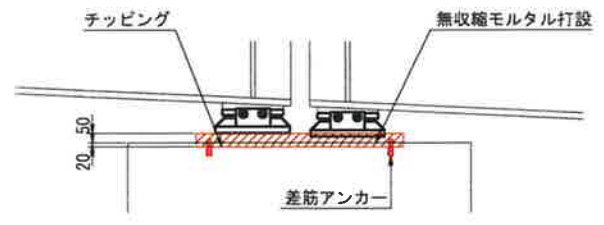
※支承周囲のモルタルを撤去し、支承下面モルタルは存置する。

平面図



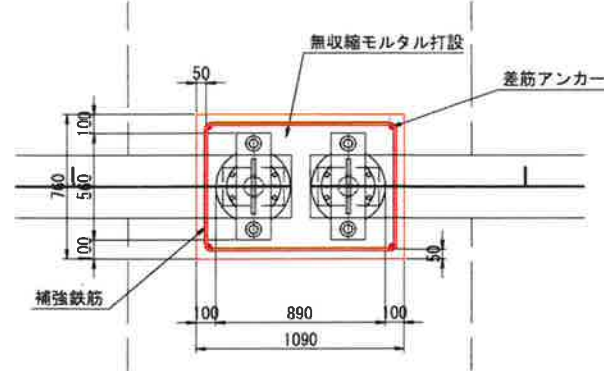
打換え後

側面図



※沓座撤去時に支承に傾斜等が見受けられた場合は、仮受けを行い、支承下面の打換えを検討する。  
※下部工との打ち継ぎ目はチッピングを施す。

平面図

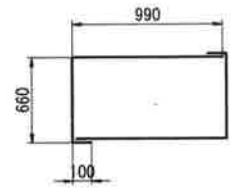


※差筋アンカー位置は、現地状況に合わせ必要に応じ、調整すること。

鉄筋詳細図 S=1/20

① 2-D10×1750  
(1組あたり材料)  
計14箇所

4-差筋アンカーD10  
(1組あたり材料)  
計19箇所



鉄筋表

記号	径	長さ(mm)	本数	単位質量 (kg/m)	1本当り質量(kg)	質量 (kg)	摘要
①	D10	1750	28	0.560	0.980	27	
計						D10 27	SD295A
						D10差筋アンカー	8本

- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  - 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

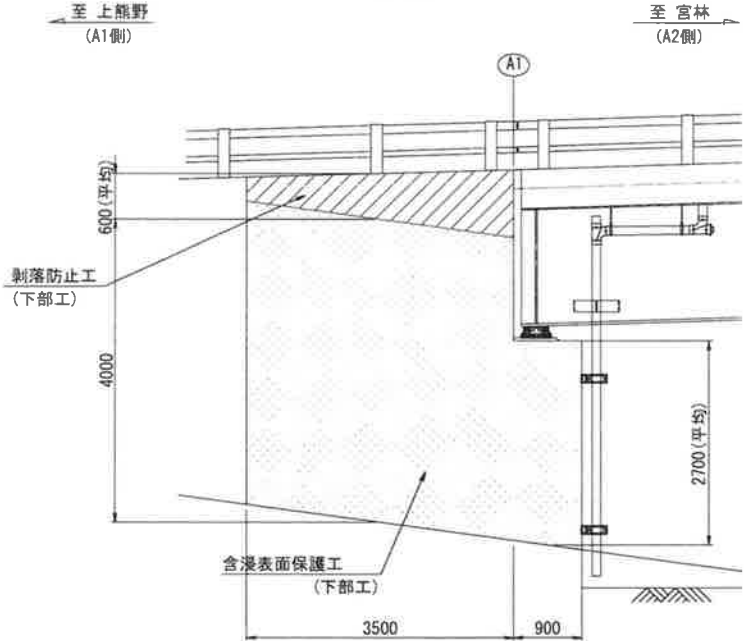
工事名	城平跨線橋 沓座補修工
図面名	城平跨線橋 沓座補修工
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 65 / 85
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その1) S=1/50

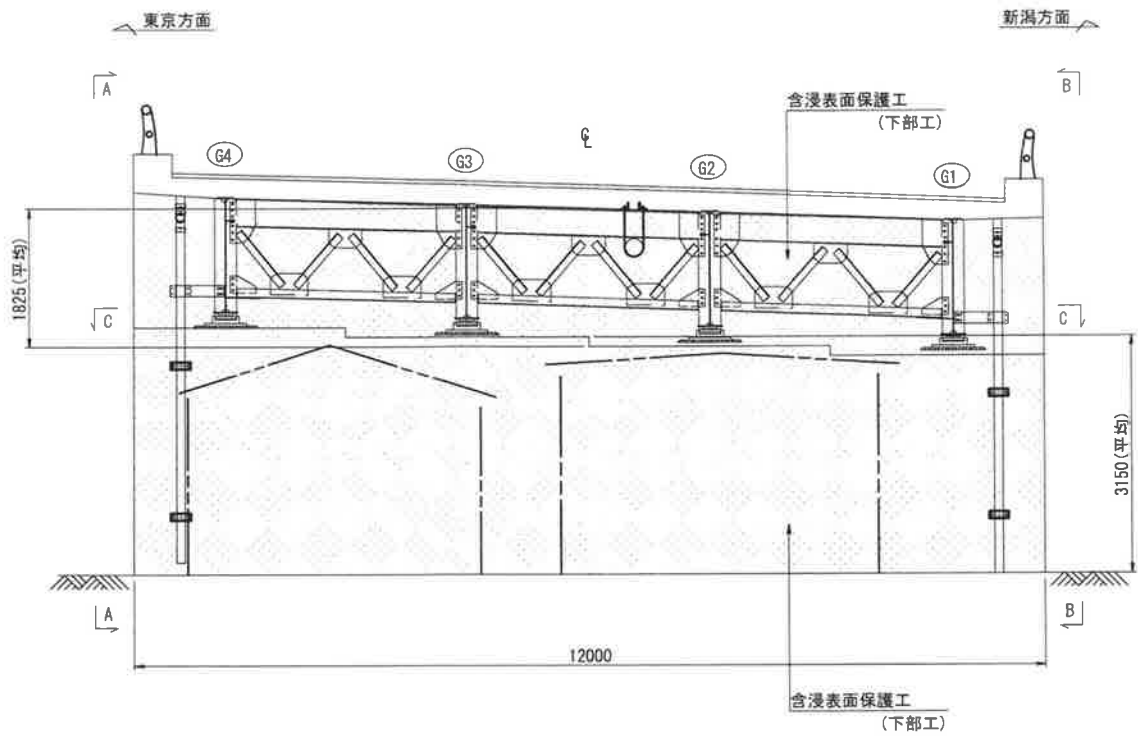
下部工 S=1/50

A1橋台

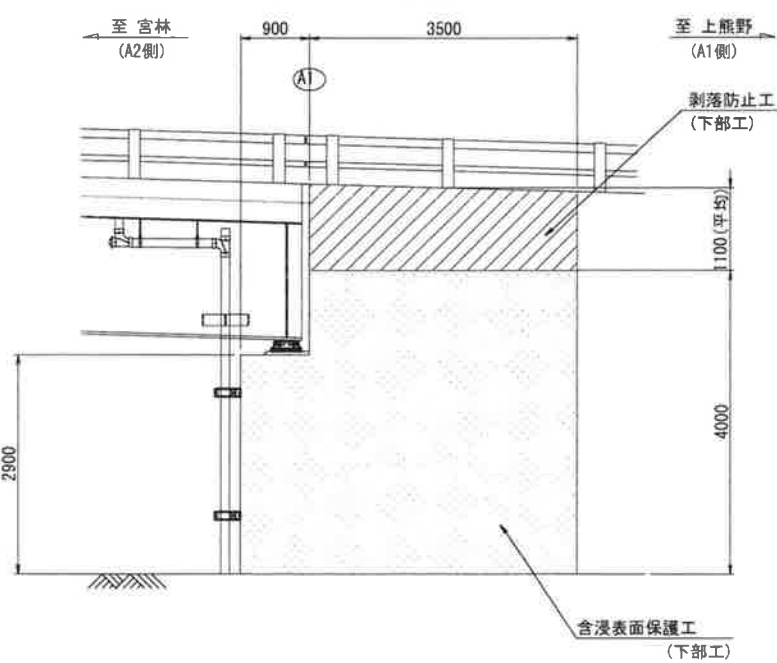
側面図 (A-A)



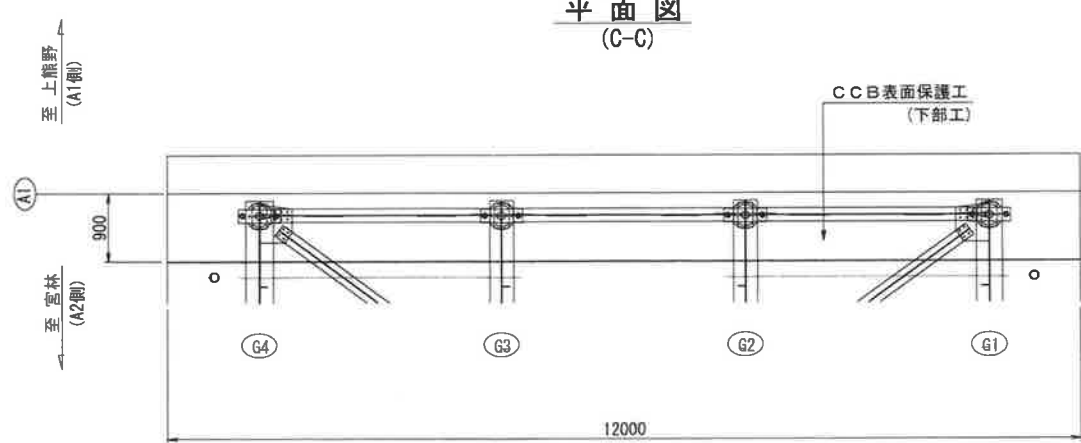
正面図



側面図 (B-B)



平面図 (C-C)



含浸表面保護工 施工面積

<A1>

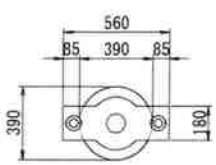
箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
縦壁正面	12.000	3.150 (平均)	1	37.80
側面(東京側)	3.500	4.000	1	14.00
側面(東京側)	0.900	2.700 (平均)	1	2.43
側面(新潟側)	3.500	4.000	1	14.00
側面(新潟側)	0.900	2.900	1	2.61
胸壁	12.000	1.825 (平均)	1	21.90
合計施工面積				92.74

剥落防止工 施工面積

<A1>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
側面(東京側)	3.500	0.600 (平均)	1	2.10
側面(新潟側)	3.500	1.100 (平均)	1	3.85
合計施工面積				5.95

支承平面積



1基当り平面積  
 $0.390^2 \pi / 4 + 0.180 \times 0.085 \times 2 = 0.150\text{m}^2$

CCB表面保護工 施工面積

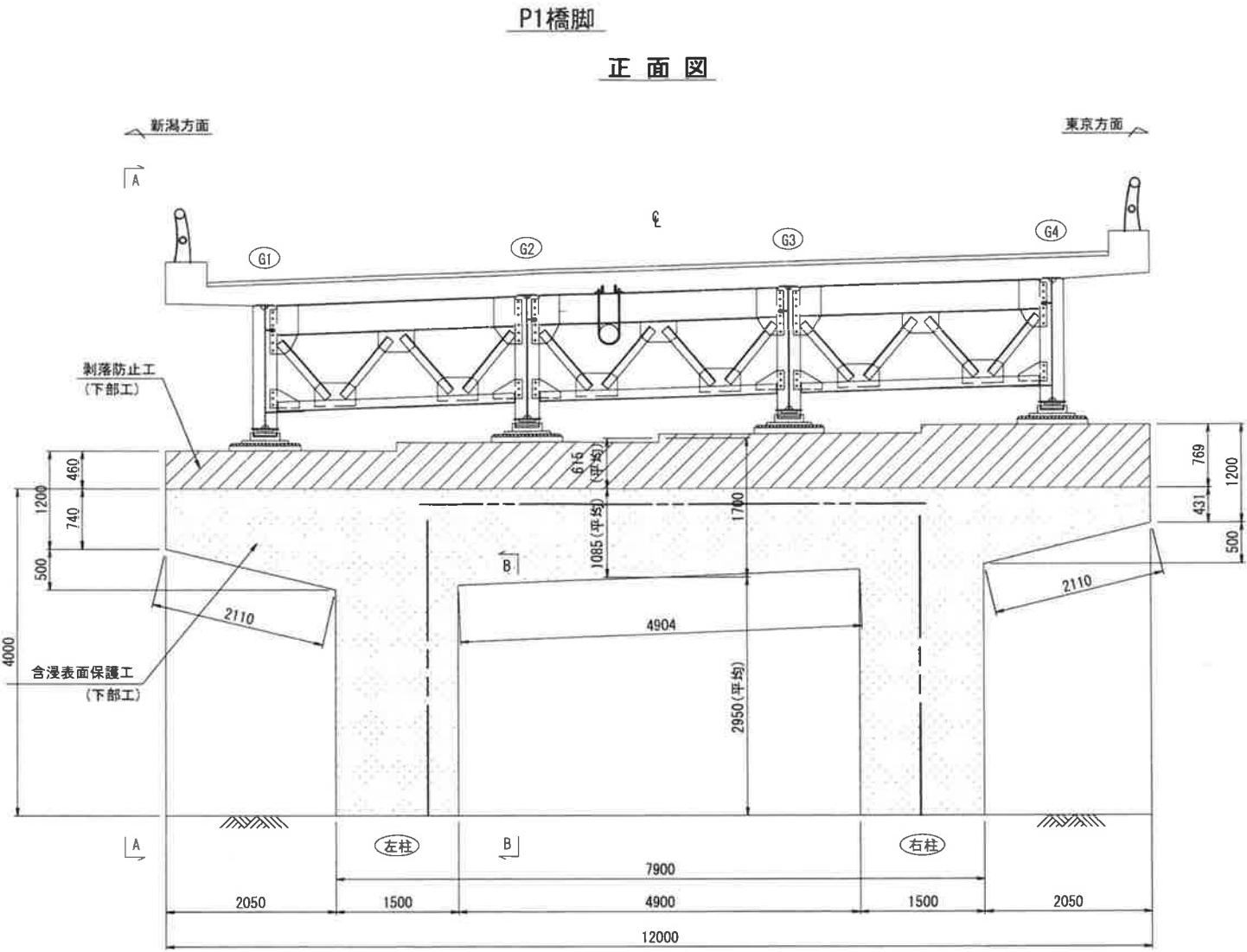
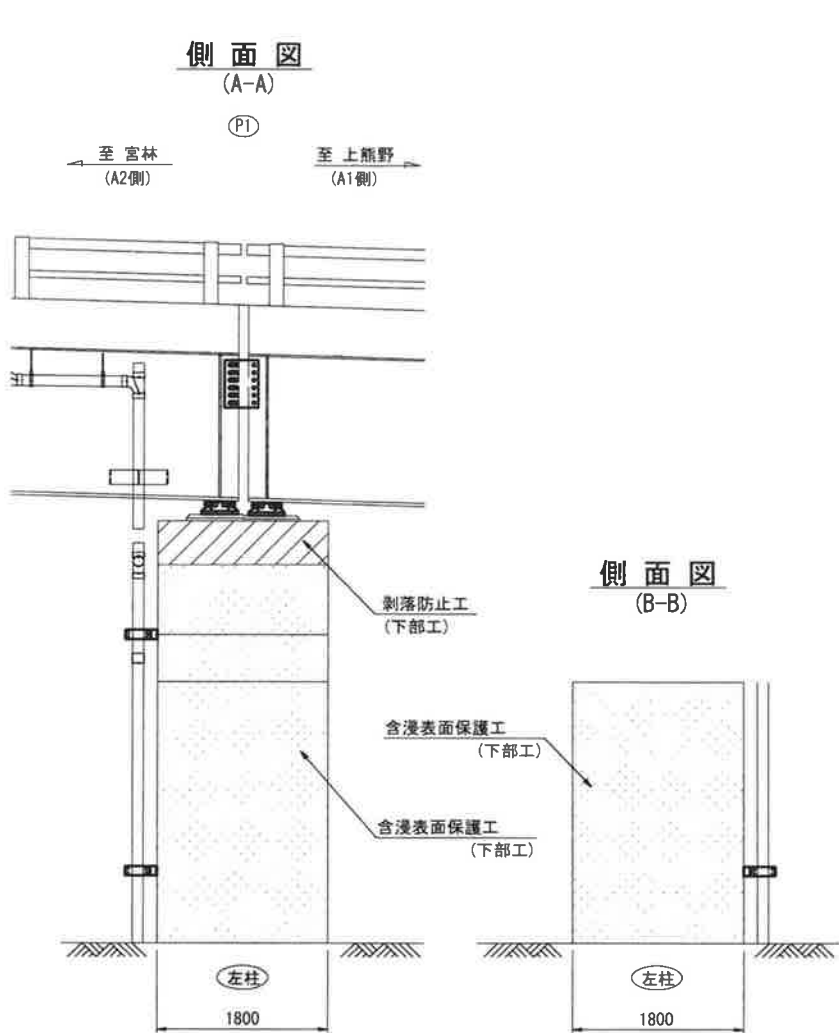
<A1>

箇 所	幅 (m)	高さ・長さ (m)	員 数	施工面積 (m2)
胸壁前面	12.000	0.100	1	1.20
橋座平面	0.900	12.000	1	10.80
縦壁正面	12.000	0.100	1	1.20
側面	0.900	0.100	2	0.18
控除(支承部)	-0.150m2		4	-0.60
合計施工面積				12.78

- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その1)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	79 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その2) S=1/40



含浸表面保護工 施工面積

<P1>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m <sup>2</sup> )
梁正面	1.085 (平均)	12.000	2	26.04
控除		-2.050 × 0.500 ÷ 2 × 4		-2.05
梁側面	0.740+0.431	1.800	1	2.11
梁下面	1.800	2.110	2	7.60
梁下面	1.800	4.904	1	8.83
柱正面	1.500	2.950 (平均)	4	17.70
柱側面	1.800	2.950 (平均)	4	21.24
合計施工面積				81.47

CCB表面保護工 施工面積

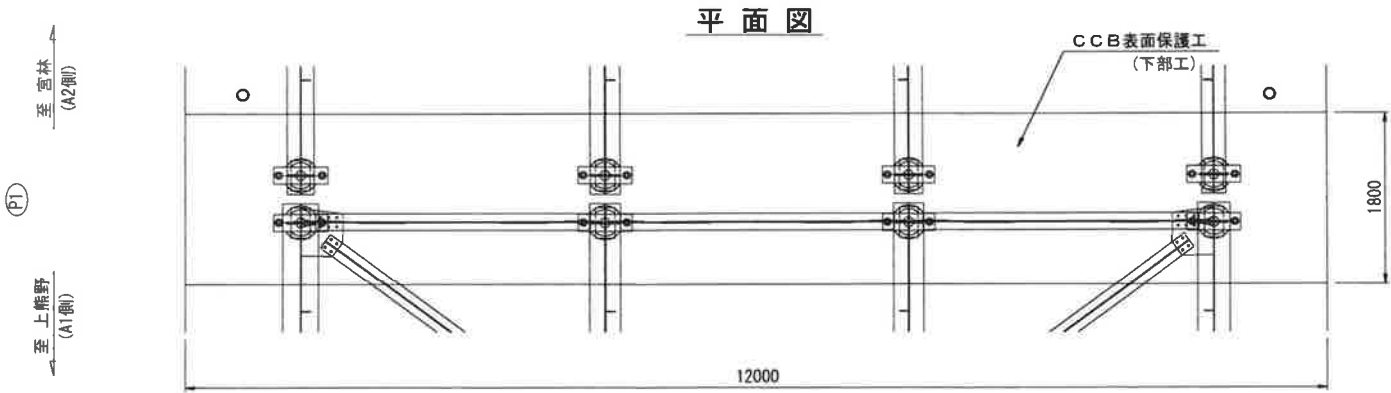
<P1>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m <sup>2</sup> )
梁上面	1.800	12.000	1	21.60
梁正面	12.000	0.100	2	2.40
梁側面	1.800	0.100	2	0.36
控除(支承部)		-0.150m <sup>2</sup>	4	-0.60
合計施工面積				23.76

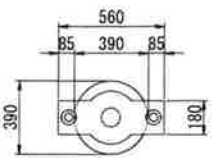
剥落防止工 施工面積

<P1>

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m <sup>2</sup> )
梁正面	0.615 (平均)	12.000	2	14.76
梁側面	0.460+0.769	1.800	1	2.21
合計施工面積				16.97



支承平面積



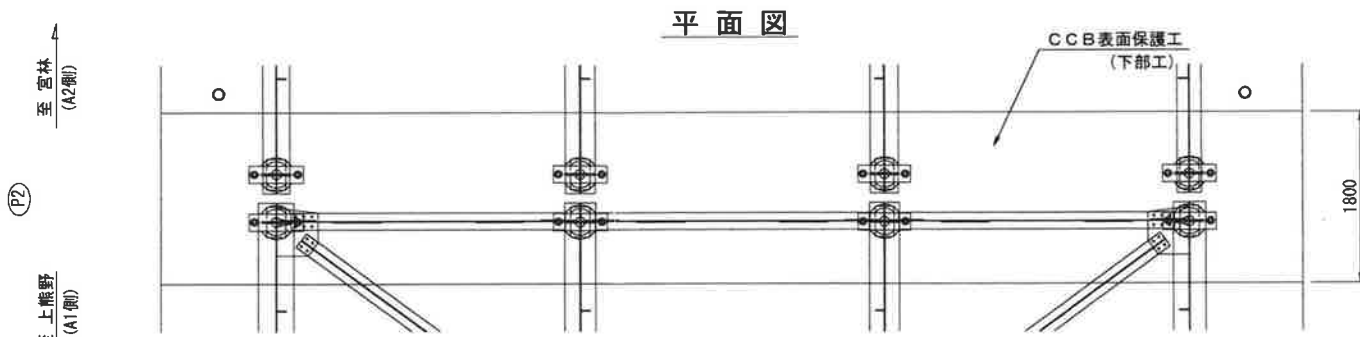
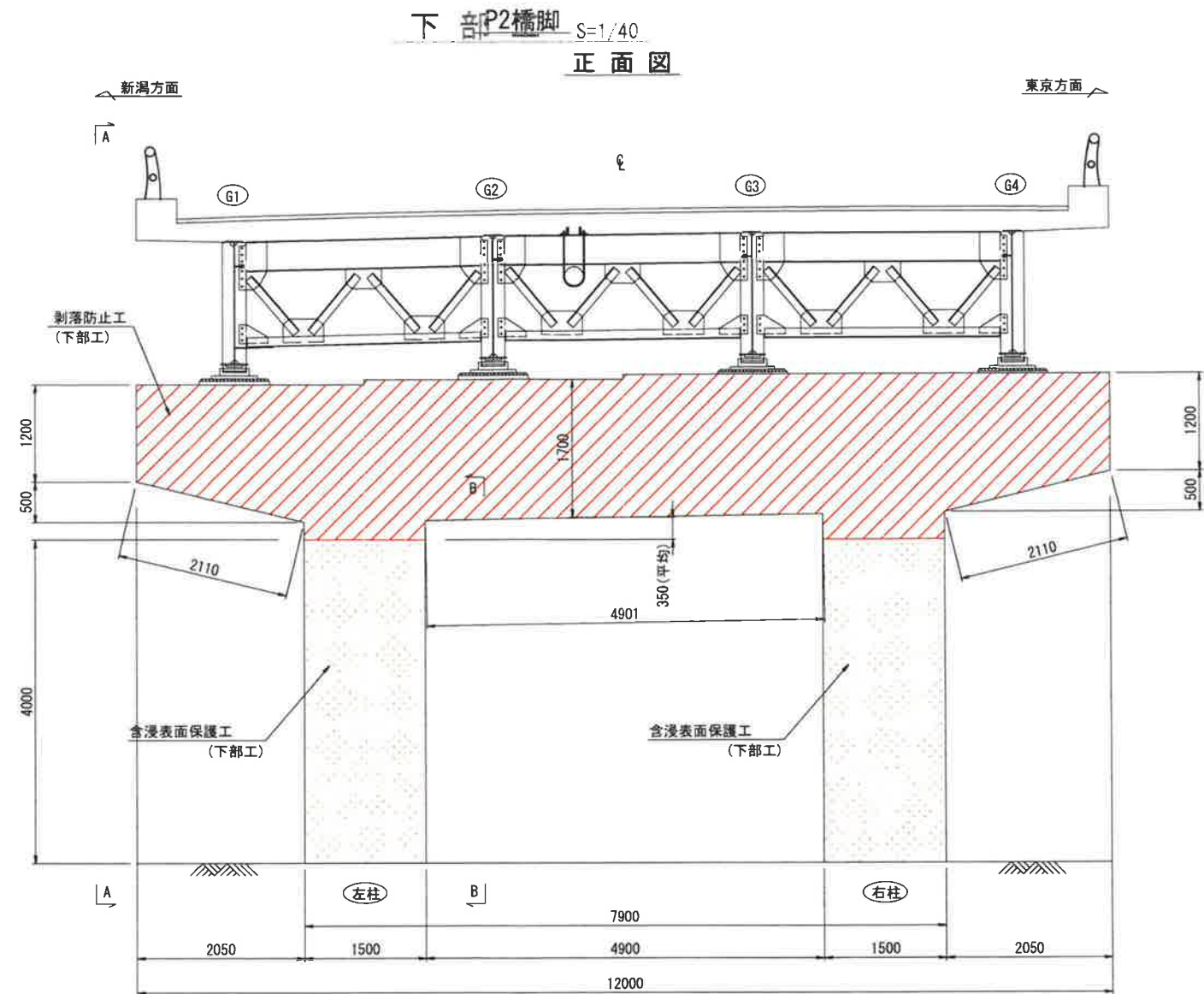
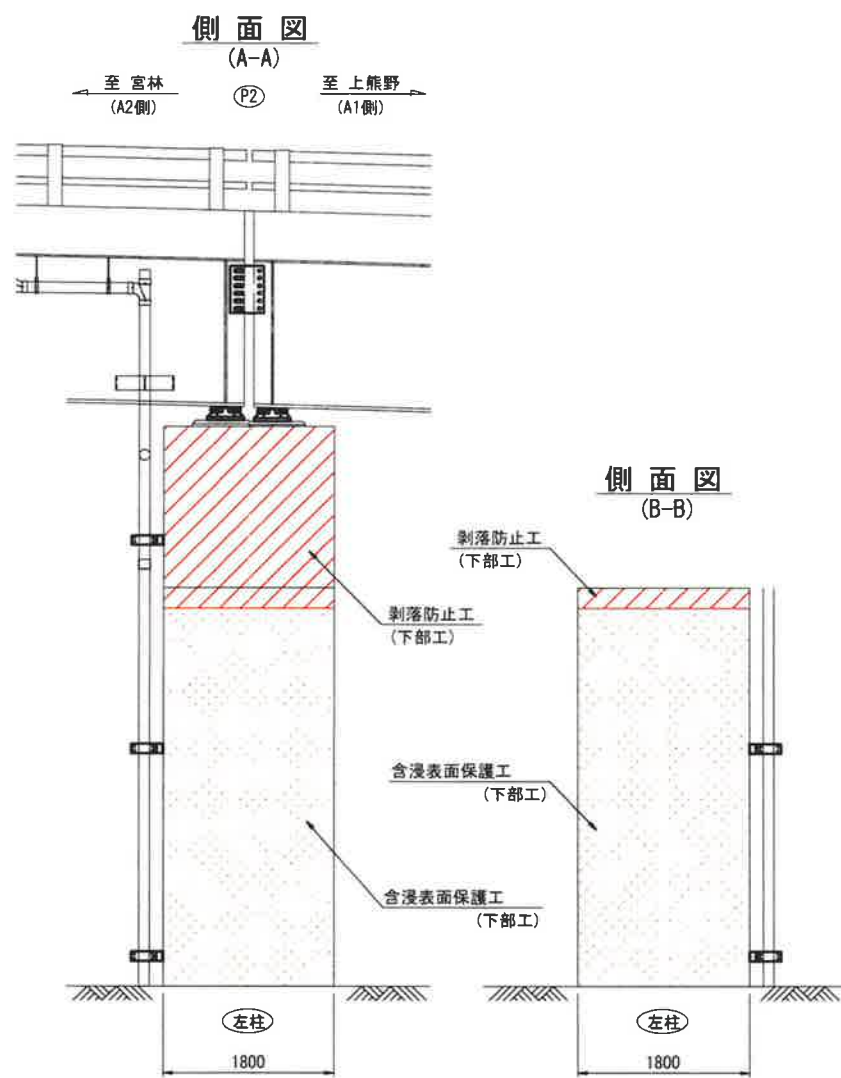
1基当り平面積  
 $0.390^2 \pi / 4 + 0.180 \times 0.085 \times 2 = 0.150\text{m}^2$

- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名			
図面名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その2)		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	80 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		



城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その3) S=1/40



含浸表面保護工 施工面積

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
柱正面	1.500	4.000	4	24.00
柱側面	1.800	4.000	4	28.80
合計施工面積				52.80

CCB表面保護工 施工面積

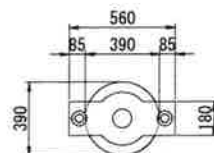
<P2>

箇 所	幅 (m)	高さ・長さ (m)	員 数	施工面積 (m <sup>2</sup> )
梁上面	1.800	12.000	1	21.60
梁正面	12.000	0.100	2	2.40
梁側面	1.800	0.100	2	0.36
控除(支承部)	-0.150m <sup>2</sup>		4	-0.60
合計施工面積				23.76

剥落防止工 施工面積

箇所	幅(m)	高さ・長さ(m)	員数	施工面積(m2)
梁正面	1.700	12.000	2	40.80
控除	$-2.050 \times 0.500 \div 2 \times 4$			-2.05
梁側面	1.800	1.200	2	4.32
梁下面	1.800	2.110	2	7.60
梁下面	1.800	4.901	1	8.82
柱正面	1.500	0.350 (平均)	4	2.10
柱側面	1.800	0.350 (平均)	4	2.52
合計施工面積				64.11

支承平面積



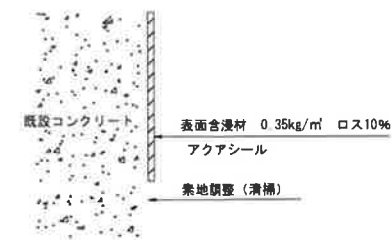
1基当り平面積  
 $0.390^2 \pi / 4 + 0.180 \times 0.085 \times 2 = 0.150\text{m}^2$

- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その3)
図面名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その3)
作成年月日	平成30年12月 日
縮尺	図示 図面番号 81 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工 標準図

含浸表面保護工詳細図



※表面含浸材の選定について  
・土木研究所「第4186号に基づく性能評価」合格品であること。  
・断面修復後に含浸材塗布は通常行われている施工であるものの、  
断面修復材によっては事前に相性確認の試験施工を行うこと。  
(事前に表面含浸材メーカーに施工実績の確認を行うこと)  
(表面含浸材メーカーにて無償サンプルの提供を受けることが可能)

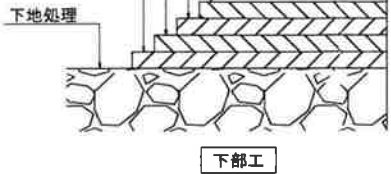
剥落防止工詳細図



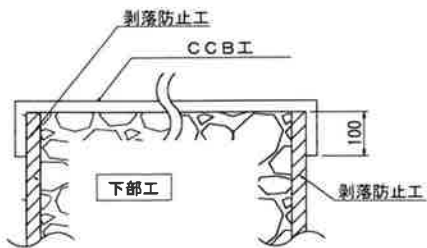
※遮水系表面保護工との重なり部は、  
【1液水性シリコン樹脂系上塗り塗料】の  
施工は行わないこと。

CCB表面保護工詳細図

上塗り材 0.12kg/m² ロス10%  
中塗り材 0.26kg/m² ロス10%  
不陸整正材 0.3kg/m² ロス20%  
プライマー 0.1kg/m² ロス15%



端部処理詳細図  
(下部工天端)



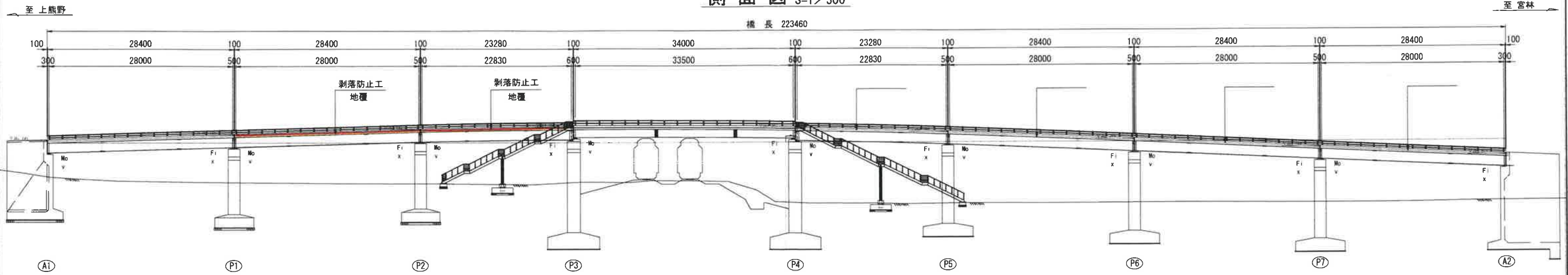
※ 剥落防止工が重なる部分の保護塗装については、  
上図の様に遮水系が下になるように塗布する。

注記)  
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。  
2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を  
確認の上で行うこと。  
3. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去  
ができない場合には、可能な範囲で補修を行うもの  
とする。

工 事 名	
図 面 名	城平跨線橋 下部工表面保護工・剥落防止工(その2)
作成年月日	平成30年12月 日
縮 尺	図 示 図面番号 79-ⅴ
会 社 名	株式会社 構造技研新潟
事業者名	湯沢町地域整備部建設課

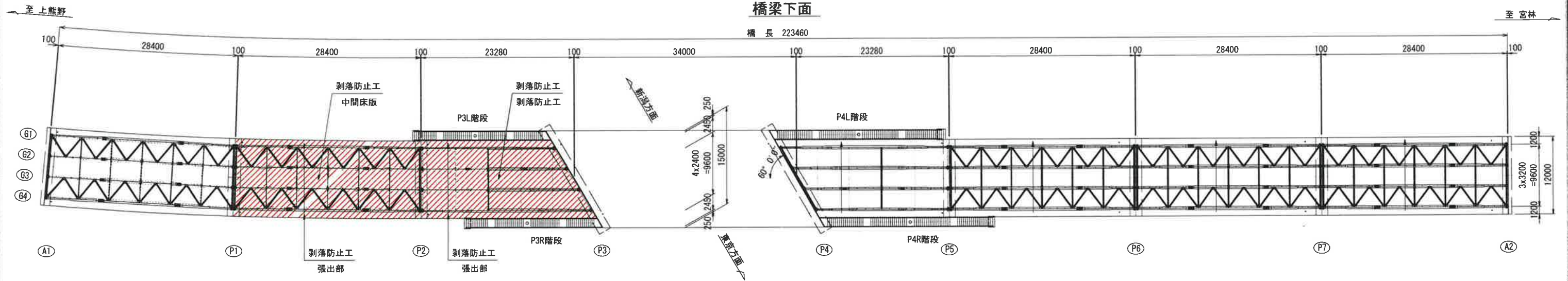
## 城平跨線橋 上部工剥落防止工(その1)

側面図 S=1/300

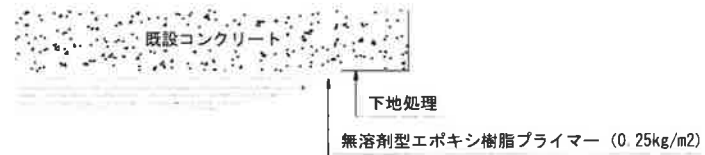


平面图 S=1/300

橋梁下面



### 剥落防止工 詳細図



注記)

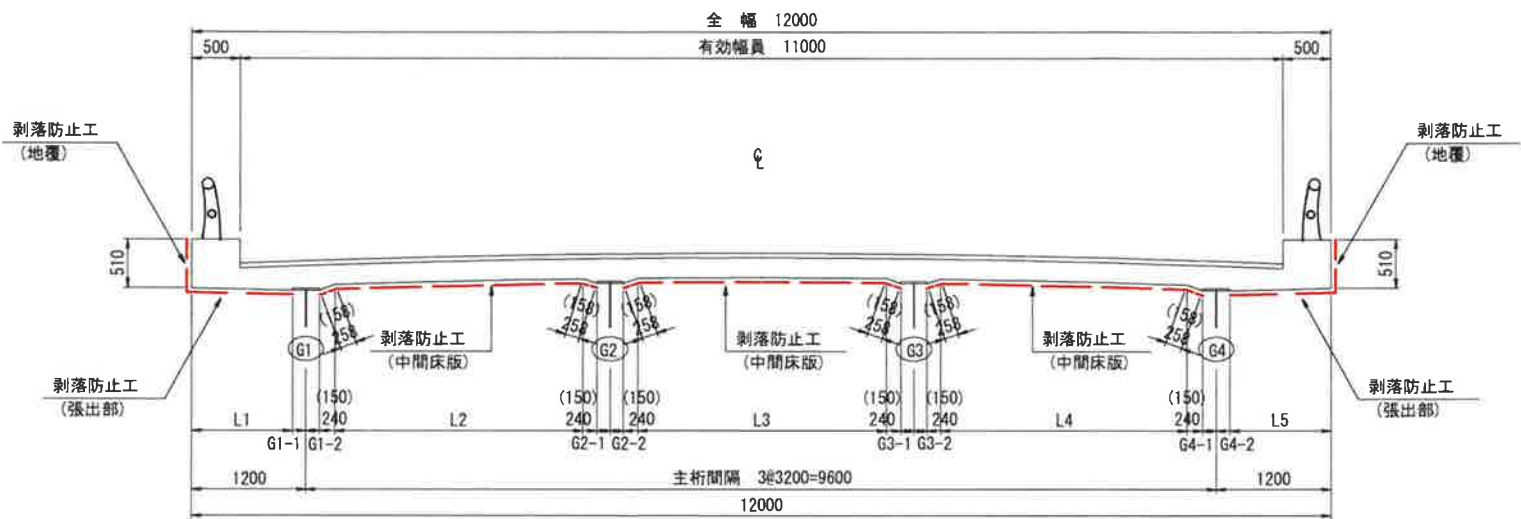
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
2. 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
3. 桁下で支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工 事 名			
図 面 名	城平跨線橋 上部工剥落防止工(その1)		
作成年月日	令和 2年 2月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	43 / 85
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		



城平跨線橋 上部工剥落防止工(その2)

断面図 S=1/40



※ハンチ高は各桁ともA1～P2間は80mm、その他は50mmとし、その勾配は1：3とする。

寸法表

		(mm)							
径 間		G1-1	G1-2	G2-1	G2-2	G3-1	G3-2	G4-1	G4-2
A1-P1		135	135	140	140	140	140	155	155
P1-P2		140	140	140	140	140	140	155	155
P2-P3		115	115	125	125	130	130	145	145
P4-P5		145	145	130	130	125	125	115	115
P5-P6		145	145	135	135	135	135	145	145
P6-P7		145	145	135	135	135	135	145	145
P7-A2		145	145	135	135	135	135	145	145

※G1-1～G4-2は、各主桁上フランジ最大幅の1/2を示す。

寸法表

		(mm)				
径 間		L1	L2	L3	L4	L5
A1-P1		1065	2445	2440	2425	1045
P1-P2		1060	2440	2440	2425	1045
P2-P3		1085	2660	2645	2625	1055
P4-P5		1055	2625	2645	2660	1085
P5-P6		1055	2620	2630	2620	1055
P6-P7		1055	2620	2630	2620	1055
P7-A2		1055	2620	2630	2620	1055

剥落防止工 施工面積

<地覆>						
径 間	断面長 (m)	施工延長 (m)	員 数	施工面積 (m2)	備 考	
A1-P1	0.510	28.400	2	28.97		
P1-P2	0.510	28.400	2	28.97		
P2-P3	0.510	23.280	2	23.75		
P4-P5	0.510	23.280	2	23.75		
P5-P6	0.510	28.400	2	28.97		
P6-P7	0.510	28.400	2	28.97		
P7-A2	0.510	28.400	2	28.97		
合計				192.35		

<中間床版>								
径 間	断面長 (m)					施工延長 (m)	施工面積 (m2)	備 考
	L2	L3	L4	ハンチ	計			
A1-P1	2.445	2.440	2.425	1.518	8.828	28.400	250.72	
P1-P2	2.440	2.440	2.425	1.518	8.823	28.400	250.57	
P2-P3	2.660	2.645	2.625	0.948	8.878	23.280	206.68	
P4-P5	2.625	2.645	2.660	0.948	8.878	23.280	206.68	
P5-P6	2.620	2.630	2.620	0.948	8.818	28.400	250.43	
P6-P7	2.620	2.630	2.620	0.948	8.818	28.400	250.43	
P7-A2	2.620	2.630	2.620	0.948	8.818	28.400	250.43	
合計						1665.94		

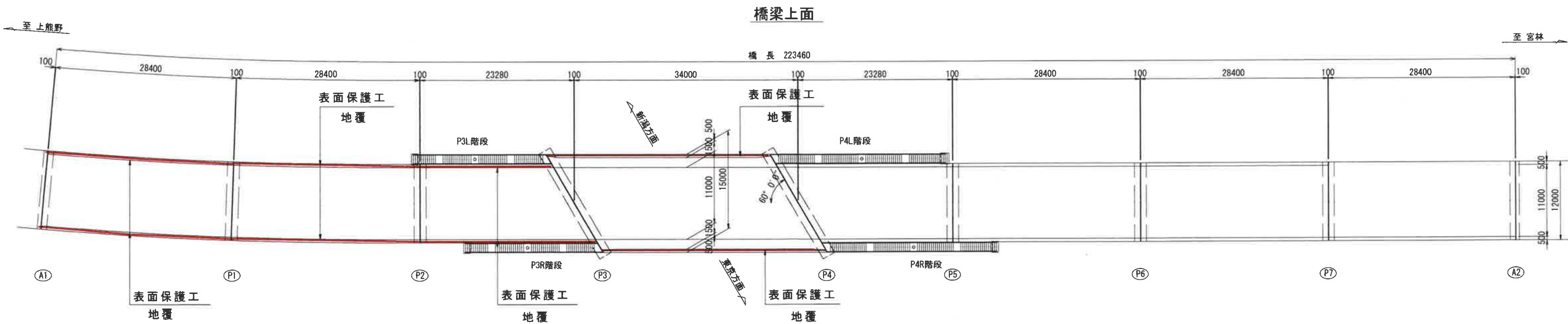
<張出部>						
径 間	断面長 (m)			施工延長 (m)	施工面積 (m2)	備 考
	L1	L5	計			
A1-P1	1.065	1.045	2.110	28.400	59.92	
P1-P2	1.060	1.045	2.105	28.400	59.78	
P2-P3	1.085	1.055	2.140	23.280	49.82	
P4-P5	1.055	1.085	2.140	23.280	49.82	
P5-P6	1.055	1.055	2.110	28.400	59.92	
P6-P7	1.055	1.055	2.110	28.400	59.92	
P7-A2	1.055	1.055	2.110	28.400	59.92	
合計				399.10		

- 注記)
- 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。
  - 施工に際しては、必ず現地にて補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。
  - 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

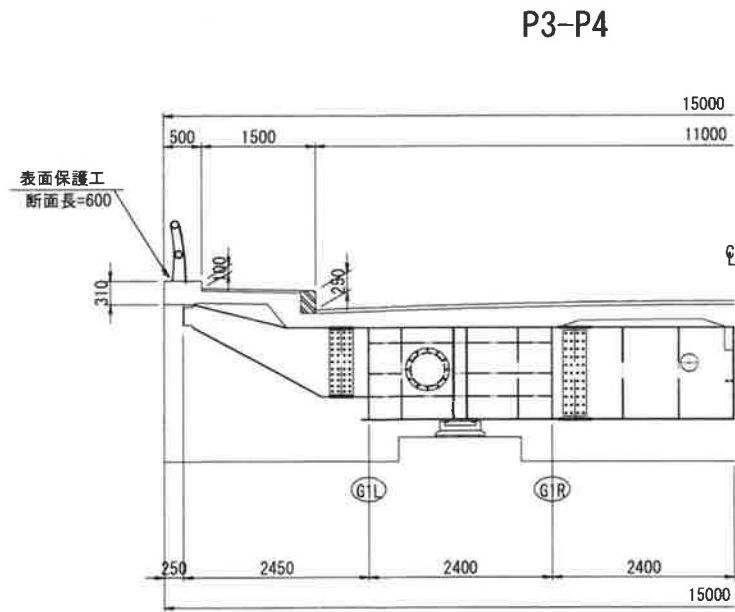
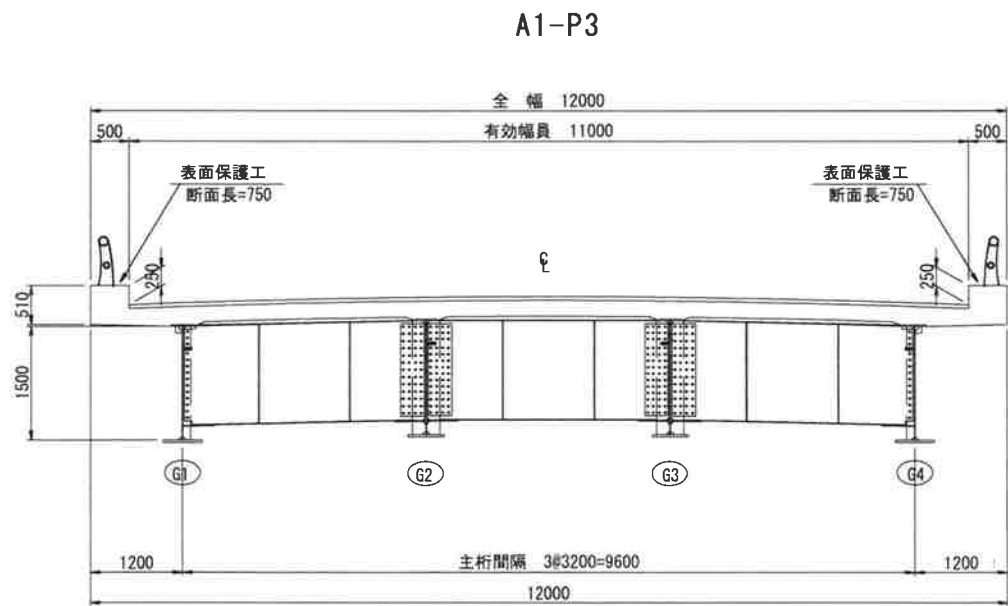
工 事 名			
図 面 名	城平跨線橋 上部工剥落防止工(その2)		
作成年月日	令和 2年 2月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	44 / 85
会 社 名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

城平跨線橋 地覆部表面保護工

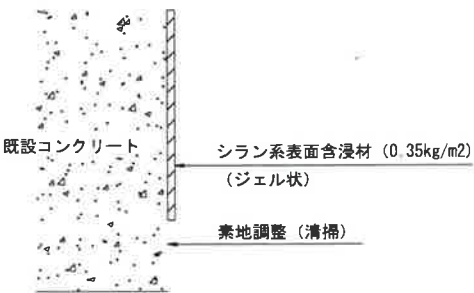
平面図 S=1/300



断面図 S=1/50



表面保護工詳細図



※表面含浸材の選定について  
・土木研究所「第4186号に基づく性能評価」合格品であること。  
・断面修復後に含浸材塗布は通常行われている施工であるものの、断面修復材によっては事前に相性確認の試験施工を行うこと。  
(事前に表面含浸材メーカーに施工実績の確認を行うこと)  
(表面含浸材メーカーにて無償サンプルの提供を受けることが可能)

表面保護工 施工面積

径 間	断面長(m)	施工延長(m)	員 数	施工面積(m <sup>2</sup> )
A1-P1	0.750	28.400	2	42.60
P1-P2	0.750	28.400	2	42.60
P2-P3	0.750	23.280	2	34.92
P3-P4	0.600	34.000	2	40.80
P4-P5	0.750	23.280	2	34.92
P5-P6	0.750	28.400	2	42.60
P6-P7	0.750	28.400	2	42.60
P7-A2	0.750	28.400	2	42.60
合計施工面積				323.64

注記)  
1. 補修箇所は、必ず現地確認の上で施工を行うこと。  
2. 施工に際しては、必ず現地に補修箇所及び数量を確認の上で行うこと。

工 事 名			
図 面 名	城平跨線橋 地覆部表面保護工		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮 尺	図 示	図面番号	42 / 85
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		

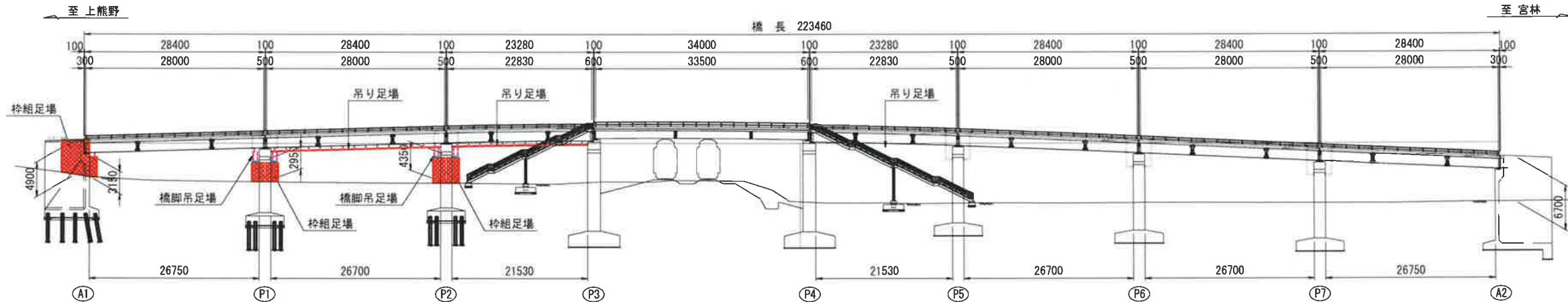




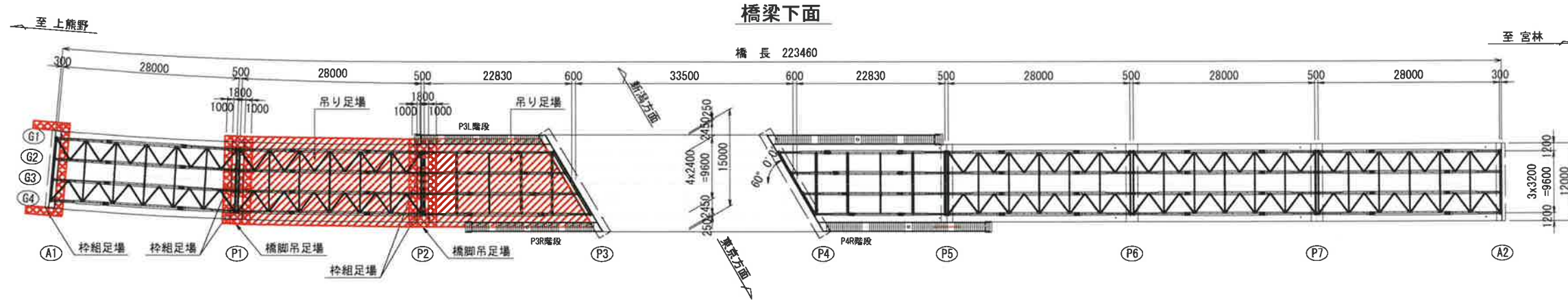


城平跨線橋 足場工

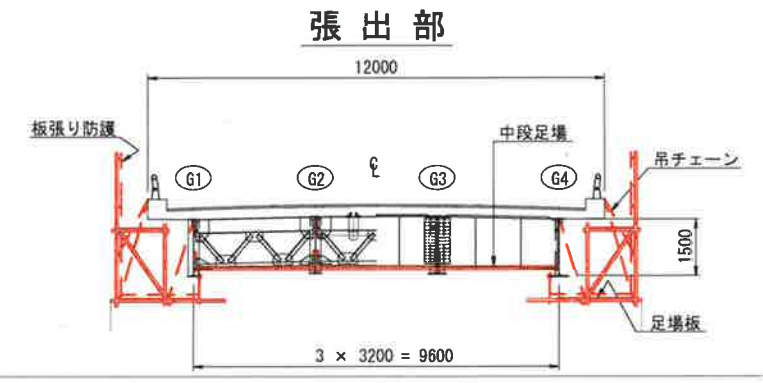
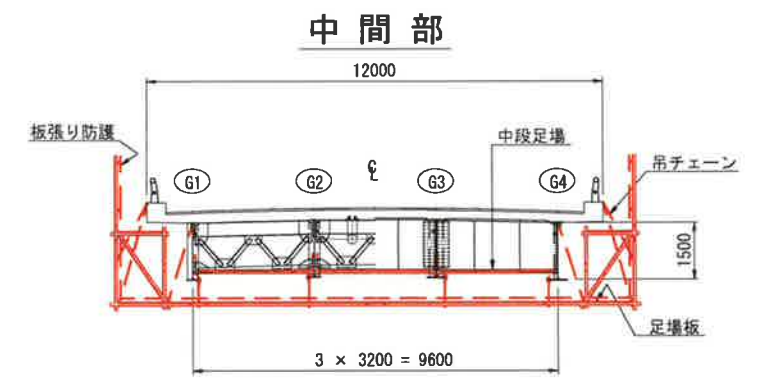
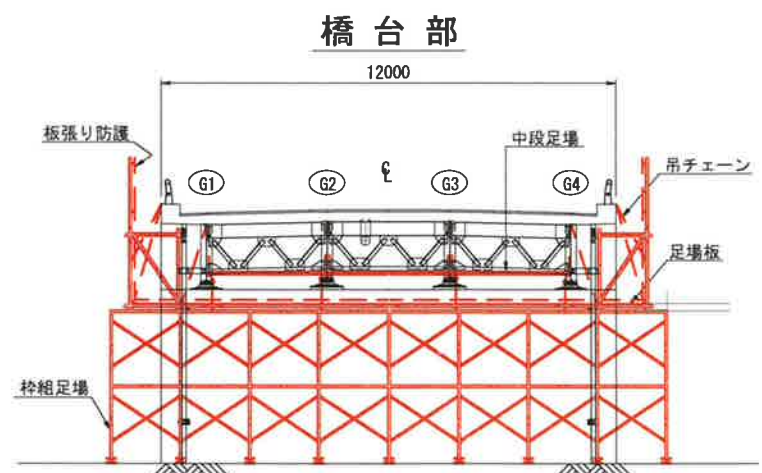
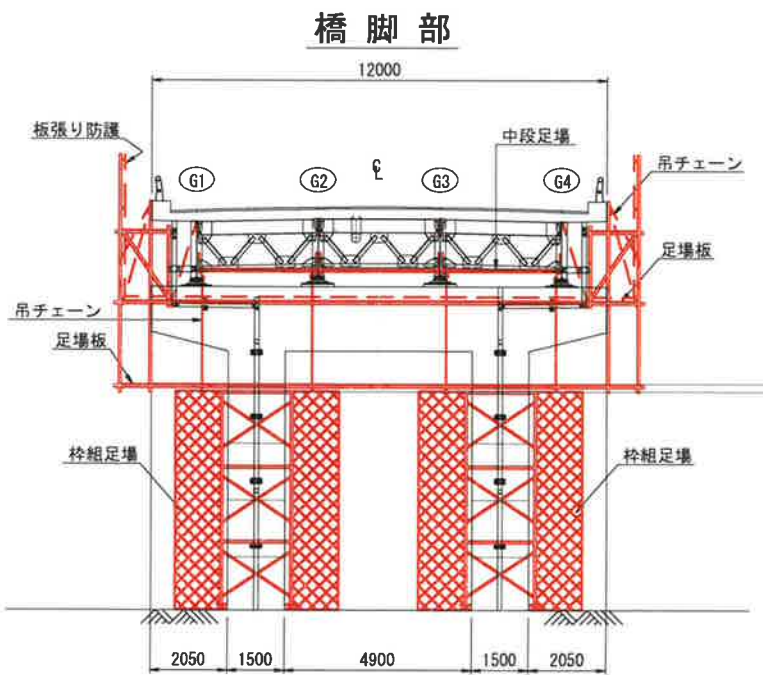
側面図 S=1/400



平面図 S=1/400



断面図 S=1/100



- 注記)
1. 足場架設の際は、必要に応じて積載荷重を検討し、安全であることを確認のうえで施工にあたること。
  2. 足場架設の際は、現地状況及び寸法を確認の上行うこと。
  3. 足場には安全ネット及び養生シートなどの措置を行うこと。
  4. 桁下に支障となりうる建物があるため、移設や撤去ができない場合には、可能な範囲で補修を行うものとする。

工事名	城平跨線橋 足場工参考図		
図面名	城平跨線橋 足場工参考図		
作成年月日	平成30年12月 日		
縮尺	図示	図面番号	86 / 85
会社名	株式会社 構造技研新潟		
事業者名	湯沢町地域整備部建設課		